

令和 4 年度
仙台市市民活動サポートセンター
年間報告書

特定非営利活動法人せんだい・みやぎ NPO センター

1 はじめに 総括	P 1	7 集計一覧
2 場の提供	P12	資料 1 サポートセンター年間行事
2-1 貸室	P15	資料 2 主な項目の利用状況推移
2-2 交流サロン	P18	資料 3 情報関連業務利用状況推移
2-3 共同事務室(事務用ブース)、ロッカー、 レターケース	P19	資料 4 市民活動共同事務室利用状況
2-4 パソコン、印刷機、コピー機	P21	資料 5 貸室利用状況(部屋別集計)
3 情報の収集・提供	P22	資料 6 貸室利用時間(曜日・時間別集計)
3-1 情報掲示等利用	P22	資料 7-1 利用団体分野別集計
3-2 団体情報の蓄積	P22	資料 7-2 交流サロン種別集計
3-3 市民活動団体への情報提供	P24	資料 7-3 Free Wi-Fi の利用集計
3-4 図書の貸出	P25	資料 8 団体情報ストック数 分野別集計
3-5 情報発信	P27	資料 9 図書資料分類別冊数
4 相談・問い合わせ対応	P28	資料 10 ホームページ アクセス件数集計表
5 交流・連携・その他	P33	資料 11 「ぱれっと」発行状況
5-1 外部組織との連携	P42	資料 12 相談・問合せ対応記録集計表
5-2 会議・研修	P42	資料 13 視察・見学等対応
5-3 視察・見学対応	P43	資料 14 サポートセンター業務運営体制
5-4 防災避難訓練	P45	
5-5 施設維持管理	P46	
6 事業報告	P47	
事業 1 情報収集提供事業	P49	
事業 2 相談事業	P51	
事業 3 人材育成事業	P55	
事業 4 協働に関する 理解促進及び機会創出事業	P61	
事業 5 調査研究事業	P69	
	P73	

1. はじめに 総括

社会課題解決に取り組む多様な主体による協働のタネを集めに行く

○仙台市市民活動サポートセンター運営基本方針

令和 2 年度(2020 年度)～令和 6 年度(2024 年度)の5年間の指定管理期間の目標として「令和6年度(2024年度)には、年間50件程度の新しい活動やプロジェクトがサポートセンターの事業を通して生まれ、300人以上の担い手が参画し、課題を解決する新しい事業や仕組みが地域社会に実装されていく」ことを掲げた。

令和 2 年度には、新型コロナウイルス感染拡大により貧困・雇用問題・DV など深刻な社会課題が発出。令和 4 年度までその影響は続き、さらには、ロシアによるウクライナ侵攻や、世界的なエネルギーや物価の高騰、金融不安などが巻き起こっている。その影響は、市民活動や社会貢献活動を展開している主体にも及んでおり、サポートセンターはこのような社会状況化でも、より活動しやすい環境をつくっていく必要がある。

市民活動や社会貢献活動の状況を正確に把握し、このような状況だからこそ、多様な主体が協働して活動を展開できるよう、令和4年度(2022 年度)は、多様な主体への聞き取り・訪問を k 評価し、多様な主体が情報交換する機会を増やすことで、地域に生まれている協働のタネを集めに行く事業を展開した。

コロナ禍を乗り越え市民活動や社会貢献活動を行う多様な主体の情報を、ブログで積極的に発信し、ブログの年間訪問者数は 65,000 件を超えた。

相談対応では、市民活動団体をはじめ、企業や町内会、教育機関、行政などの多様な主体の活動相談に対応。活動相談の数が窓口利用相談を上回り、スタッフから市民活動団体への声かけ・訪問で活動状況をヒアリングした「その他」の相談も前年度比 118%と増加した。市民活動の現場訪問(32 件)や、協働の実践者の訪問(15 件)も積極的に行った。

仙台市が展開する様々な協働支援の制度を活用した協働の実践を目指す「協働ゼミ」を初開催し、協働に取り組もうとする市民活動団体等の力付けを行い、定員を超える 9 団体の参加があった。

多様な主体が社会課題について意見交換を行う「せんだい・みやぎソーシャルハブ」にはのべ 193 人が参加し、10 代～30 代の若者を対象とした活動者とまだ活動をしていない人の交流会「サポセンユースフェスタ」を初開催。26 名が参加した。

調査研究事業では、NPO 法人等を対象にコロナ禍の前後での活動の変化について WEB アンケートを実施。47 件の回答からは、コロナ禍の影響を受けつつも、厳しい社会状況だからこそ、活動の意義を強く感じ、活動の維持・拡大をはかろうとする市民活動団体の姿が浮かび上がった。

○令和4年度の成果と課題

(1)施設運営

①成果

年間利用団体数 997 団体

新型コロナウイルス感染拡大の状況に応じて発令された政府や市による感染対策に従いつつ、利用者の安全を確保しながら、施設を運営した(P7～「○新型コロナウイルス感染拡大による影響」参照)。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で令和2年度に大きく落ち込んだ貸室・フリースペースの利用団体(令和元年度 720 団体、令和2年度 357 団体)も、令和3年度から復調の兆しが見え始め(令和3年度 404 団体)、令和4年度は 511 団体が利用。令和元年度の 7 割まで利用が戻ってきた。

相談の利用団体数(個人も含む)は、令和 4 年度 795 件で、貸室・フリースペースの利用団体を大きく上回った。サポートセンターの役割が「場の提供」に限らないことを示している(P13「2. 場の提供 ■利用団体数」参照)。

※重複利用があるため、貸室・フリースペースの利用団体数と相談の利用団体数の計は年間利用団体数を超える。

②課題

令和4年度の貸室の利用件数は新型コロナウイルス感染拡大前の令和元年度の9割まで回復した一方で、貸室の利用者数は令和元年度の6割にとどまった(資料2「主な項目の利用状況推移」参照)。令和2年度は一時的に(6月1日～10月4日)定員の半分以下での利用を要請していたが、それ以降令和3年度、令和4年度では定員内の利用であれば、人数を制限していない。利用者が、定員より少ない人数で貸室を利用し、密にならないよう工夫したため、貸室利用 1 件当たりの利用人数が減少した。「多くの人が利用する施設」から「多様な利用の仕方ができる施設」へと、時代の変化に合わせた柔軟な支援様式を打ち出し続けていく時期に来ている。

(2)情報収集提供事業

①成果

ブログの年間訪問者数(ユニークユーザー) 65,527 件 記事投稿数 322 件

サポートセンターのブログでは、主催事業の告知や報告、市民活動団体のイベント情報、助成金情報、トルコ・シリア大地震の被災地支援情報などを掲載した。令和4年度は、記事投稿数が322件と令和3年度の399件から減ったため、訪問者数(ユニークユーザー)も 65,527件(前年度比 95%)に減少したが、閲覧数(ページビュー)は 928,101 件(前年度比 101%)と令和3年度を上回った(P30「3-5. 情報発信(3)ブログの管理」参照)。

②課題

紙媒体(チラシ、ポスター、ニューズレターなど)の情報掲示利用件数は 2,913 件で、令和3年度の 2,418 件よりは増加したものの、新型コロナウイルス感染拡大前の令和元年度比 81%と減少した状態が続いている(P22「3-1.情報掲示等利用」参照)。緊急事態宣言など大きな規制があった令和2年度と比べると、チラシ・ポスター共に令和4年度 1.5 倍程度の受付件数となっているが、市民活動関連のイベントは、まだコロナ禍前の活況を取り戻しているとは言えない。

(3)相談事業

①成果

年間相談件数 1,077 件 (前年度比 127%)

うち活動相談 437 件 (前年度比 143%)

サポートセンターの令和4年度年間目標

年間相談件数 900 件、うち活動相談 400 件 → 達成

令和4年度の相談件数は1,077件(令和3年度845件、前年度比127%)。年間目標としていた900件を大きく上回った。令和4年度の相談の内訳をみると、「活動相談」437件(前年度比143%)、施設の利用問合せなどの「窓口利用相談」409件(前年度比119%)、スタッフから団体へ声がけして話を聞いた情報共有などが含まれる「その他」231件(前年度比118%)で、活動相談が窓口利用相談を上回った(P33～「4. 相談・問い合わせ対応」参照)。

新型コロナウイルス感染拡大に関連した活動相談は18件(活動相談全体の4%)で、令和3年度の43件からさらに減少した。数は減ったものの、活動をする場や活動の成果を発表する場がないという相談などが今でも寄せられている。

活動相談について、相談者の属性別にみると、市民活動団体が半数を占めるものの、町内会、教育機関、行政等からの相談の割合が増加。それぞれ年間10件を超え、多様な属性からの相談が寄せられ始めている。仙台市の「地域づくりパートナープロジェクト推進助成制度」の事前相談の件数が増えていることが、町内会からの相談増加につながっている。

②課題

「窓口利用相談」と「活動相談」、「その他の相談」を合わせた相談全体では、企業からの相談が前年度比89%と唯一減少した。活動相談に限ってみると、企業からの相談件数は増えているが、その中でも「社会貢献活動関連で外へ出られる時間が激減した」という担当者の声が寄せられており、世界的な物価高騰やエネルギー価格の高騰、金融不安などを理由とした、経済活動の縮小の影響が、企業の社会貢献活動の縮小につながる懸念がある。

(4)人材育成事業

①成果

事業参加を通して行動や活動に変化がもたらされた事例		累計 197 件
サポートセンターの目標		
事業参加を通して行動や活動に変化がもたらされた事例 5年間で100件以上		→ 達成
若者の人材育成に資する事業を、関係機関等とも連携しながら、毎年度2事業以上実施する。		→ 達成
(宮城野区中央市民センター「まいぶろ」、仙台まちづくり若者ラボ、 仙台若者 SDGsアワード、社会福祉士実習の受入)		

事業参加後・相談後に行動や活動に変化がもたらされた事例を、電話での聞き取りや活動先への訪問、来館時の声がけなどで把握した。その件数は、令和3年度終了時点で84件だったが、令和4年度終了時点で、累計197件に増加した。以下に3つの事例を紹介する。

事例1 サポートセンター主催講座「助成金講座」(令和4年度実施)受講者

助成金講座受講から約2週間後に相談のため来館。助成金の探し方や、応募条件、複数助成金に応募する場合についてなど、助成金応募のための相談に対応した他、活動面の課題を聞き取り、活動内容の整理なども行った。

事例2 令和4年9月に立ち上がった団体

悩みを抱える女性の支援を行う団体。立ち上げ当初から、広報、資金調達など団体の活動段階に応じて、継続的に相談対応。活動が軌道に乗り、法人化も視野に活動を継続している。

事例3 法人化で相談した団体と団体設立で相談した団体の二者の連携

令和3年度より相談を受け、法人化した一般社団法人と、令和4年11月から相談を受け団体設立に至った学生団体の二者が、社会の課題と感じていることや活動内容が一致したことで、協働による企画実施につながった。

②課題

動画コンテンツ「いづいっちゃんねる」で地域にある社会課題を市民に伝えることはできたが、その後の市民一人ひとりが取り組める課題解決につながるアクションの提案が十分とはいえず、せっかく課題を知った市民が行動に移す機会を提供できなかった。

(5) 協働に関する理解促進及び機会創出事業

① 成果

多様な主体が交流できる機会の参加者 のべ **219** 人参加

多様な主体が社会課題について意見交換を行う「せんだい・みやぎソーシャルハブ情報交換会」を全 10 回実施し、のべ 193 人が参加した。市民(高校生を含む)、企業、個人事業主、大学関係者、市民活動団体、行政職員、市議会議員などさまざまな立場の人が活発に意見交換を行う場を提供できた。

対象者を 10 代～30 代の若者に限定した交流会「サポセンユースフェスタ」の参加者は 26 人。市民活動未経験者と市民活動団体などですでに活動している人の割合がほぼ半々で、まだ何の活動にも関わっていない若者と、すでに活動している若者が交流する機会となった。

協働の理解促進や機会創出に資する事業として、「せんだい・みやぎソーシャルハブ情報交換会」の他に、協働事例を動画で紹介する「協働の現場トーク!」、仙台市の諸制度を利用して協働に取り組もうとする団体等へ向けた「協働ゼミ」も実施した。「協働ゼミ」は仙台市からの依頼で令和 4 年度に初めて実施した企画で、定員の 5 団体を上回る 9 団体の参加があった。

② 課題

「せんだい・みやぎソーシャルハブ情報交換会」から派生し、「居住支援」をテーマに市民、企業、市民活動団体、行政職員が参加する「ソーシャルラボ」を立ち上げたが、実際に課題解決に取り組むプロジェクトを立ち上げるためには、まだ資源(人材・資金等)が不足している。

(6) 調査研究事業

① 成果

社会課題を市民の手で調査分析・可視化するソーシャルラボ機能について「居住支援」と「プロボノ」をテーマに実施。「居住支援」では、市民、企業、支援団体、行政の 4 つのセクターが参画して課題解決のためのロードマップを作成した。

② 課題

ソーシャルハブ事務局を公益財団法人日本財団の助成金なども活用し、協働体制で運用したが、人材・資金等の面で、事務局機能の安定化が急務である。

○新型コロナウイルス感染拡大による影響

(1) 政府・県の施策と仙台市ガイドライン・施設開館状況

令和4年度の新型コロナウイルス感染拡大にかかる政府・県の施策、市のガイドライン、市民活動サポートセンターの開館状況を以下に時系列でまとめた。

期間	特措法関連 (対宮城県)	宮城県独自	仙台市ガイドライン		市民活動 サポート センター
			改訂	施設への 制限等	
令和4年 3月22日～ 5月15日	発令なし	再拡大防止期間	二十九訂版	実施可能な感 染防止策等を 考慮した上で 施設ごとに利 用の休止等を 判断	通常開館
5月16日～ 5月17日					
5月18日～ 6月30日			三十訂版		
7月1日～ 7月24日			三十一訂版		
7月25日～ 8月4日			三十二訂版		
8月5日～ 8月9日		BA.5 対策強化 宣言			
8月10日～ 9月14日			三十三訂版		
9月15日～ 9月30日			三十四訂版		
10月1日～ 10月3日			三十五訂版		
10月4日～ 10月31日					
11月1日～ 11月30日			三十六訂版		
12月1日～ 令和5年 1月29日			三十七訂版		
1月30日～ 3月12日			三十八訂版		
3月13日～ 当面の間			三十九訂版		

(2)ガイドライン

仙台市危機管理室発行の「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う仙台市の事業及び施設等の取り扱いに係るガイドライン」の発行日及び概要(ガイドライン暫定版発行時から令和5年3月末時点までの経緯を掲載。(令和4年度についてはP10に掲載))

発行日	版	施設の取扱いの概要／サポートセンターの運用	適用期間
令和2年 2月27日(木)	暫定版	適切な感染予防対策を講じて運営。 2月20日～3月9日の使用料全額返金	3月9日まで
2月29日(土)	改訂版	適用期間延長	3月31日まで
3月4日(水)	三訂版	適用期間の新規受付休止 フリースペースの利用休止	3月5日～ 3月31日まで
3月27日(金)	四訂版	適用期間延長	4月12日まで
4月8日(水)	五訂版	適用期間延長 サポートセンター4月11日～臨時休館 継続するサービスは18時まで ※継続するサービス 窓口、印刷作業室、事務用ブース、ロッカー、レターケース	5月10日まで
4月22日(水)	六訂版	利用の自粛を強く要請 使用料全額返金について、適用期間以降のものについても対象とする 継続するサービスは、4月25日～5月10日の間は17時まで	5月10日まで
4月30日(木)	七訂版	適用期間中は臨時休館 新規利用の受付休止(適用期間外も) やむを得ず利用する場合は予防対策の徹底を要請	5月31日まで
5月15日(金)	八訂版	適用期間中は施設ごとに休止を判断 施設ごとに予約受付の再開を判断 利用者に対して感染予防策の励行 サポートセンター6月1日～開館 フリースペースは休止 貸室の利用は定員の半数程度を要請 6月1日以降利用の貸室について5月18日より電話予約受付開始	5月31日まで
5月27日(水)	九訂版	業種別感染拡大予防ガイドラインに配慮し、適切な感染予防対策を徹底 サポートセンター 6月1日～窓口での貸室申込受付再開	当面の間
7月29日(水)	十訂版	施設の取扱い変更なし (市主催事業の定員についてのみ変更)	当面の間
8月27日(木)	十一訂版	施設の取扱い変更なし (市主催事業の定員についてのみ変更)	当面の間
9月17日(木)	十二訂版	サポートセンター 市民活動シアターの利用は、ガイドラインの＜催物開催の目安＞を基準に要請	当面の間
11月30日(月)	十三訂版	「寒冷な場面における新型コロナウイルス感染防止等のポイント」を踏まえ換気・保湿に努める。 利用料は令和3年3月31日利用分まで全額返金(令和3年4月～9月利用分は令和3年3月31日まで申し出た場合のみ全額返金対象)	当面の間
令和3年 3月1日(月)	十四訂版	サポートセンター 市民活動シアターの使用料は、9月利用分まで全額返金	当面の間
3月25日(木)	十五訂版	3月26日以降、宮城県・仙台市緊急事態宣言発出期間中は原則休館または利用の自粛呼びかけ。同期間の使用料は全額返金。 サポートセンター3月27日～利用休止 既予約者に利用の中止を強く求める 原則17時閉館 5月31日利用分まで新規予約受付停止	当面の間

発行日	版	施設の取扱いの概要／サポートセンターの運用	適用期間
令和3年 4月5日(月)	十六訂版	まん延防止等重点措置を実施すべき区域として指定されている期間中は原則休館または利用の自粛呼びかけ。同期間の使用料は全額返金。	当面の間
4月27日(火)	十七訂版	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のためのイベント中止等に係る市民利用施設使用料については、令和3年9月30日までの利用分について、令和3年6月30日までにキャンセルを申し出た場合は、全額返金。	当面の間
5月8日(土)	十八訂版	適用期間中は、施設や利用者の特性、実施可能な感染防止策等を考慮した上で、施設ごとに利用の休止等を判断する。 宮城県・仙台市緊急事態宣言期間中においては、施設利用者に本市が主催する事業に準じた取り扱いを求め、チェックリストの活用や巡視等により、感染防止策のさらなる徹底を図るものとする。	当面の間
6月10日(木)	十九訂版	十八訂版の「宮城県・仙台市緊急事態宣言期間中においては」の記載が、宮城県・仙台市緊急事態宣言の解除およびリバウンド防止徹底期間の延長(7月11日まで)を受けて、「リバウンド防止徹底期間中においては」と改訂	当面の間
7月8日(木)	二十訂版	使用料返金対象となる取りやめ申請期間終了(6月30日取りやめ分まで)を受けて、使用料返金に係る記述削除。 施設利用者には市の主催事業に準じた感染対策を求める。リバウンド防止徹底期間中はチェックリストの活用など感染防止策を徹底。30分に1回以上の換気など、細かな訂正あり。	当面の間
8月12日(木)	二十一訂版	宮城県・仙台市独自の緊急事態宣言が発令されたことに伴う改訂。施設の取り扱いには変更なし。	当面の間
8月18日(水)	二十二訂版	まん延防止等重点措置を実施すべき区域として指定されている期間中は原則20時まで。 令和3年9月12日利用分までの感染症拡大防止のためのイベント中止等における施設使用料は全額返金。 サポートセンター 原則20時に閉館(日曜・祝日を除く) 期間中の20時以降の貸室の新規予約および市民活動シアターの夜間区分使用の受付を停止。 既予約者に対しては20時以降の利用自粛を求める。 1階・3階のフリー利用休止	8月20日～ 9月12日まで
8月26日(木)	二十三訂版	緊急事態措置を実施すべき区域に指定されている期間中の市民利用施設については、原則休館又は利用自粛。 サポートセンター 8月30日～利用休止 原則17時閉館 既予約者に利用の中止を強く求める9月30日利用分まで新規予約受付停止 ※継続するサービス 窓口、印刷作業室、事務用ブース、ロッカー、レターケース	8月27日～ 9月12日 ※施設の取り扱いは8月30日より適用

発行日	版	施設の取扱いの概要／サポートセンターの運用	適用期間
令和3年 9月10日(金)	二十四訂版	まん延防止等重点措置を実施すべき区域として指定されている期間中は原則20時まで。 令和3年9月30日利用分までの感染症拡大防止のためのイベント中止等における施設使用料は全額返金。 サポートセンター 二十二訂版に同じ	9月13日～ 9月30日まで
9月29日(水)	二十五訂版	施設利用者には市の主催事業に準じた感染対策を求める。リバウンド防止徹底期間中はチェックリストの活用など感染防止策を徹底。	10月1日～
10月26日(火)	二十六訂版	「チェックリストの活用」についての項目が削除。 サポートセンター チェックリストを引き続き活用。	11月1日～
11月24日(水)	二十七訂版	留意事項が11月22日宮城県発出の要請「イベント開催等における必要な感染防止策」の「基本的な感染対策」に拠る表現に変更。	11月25日～
令和4年 2月2日(水)	二十八訂版	「チェックリストの活用」についての項目が復活。 サポートセンター チェックリストの活用は継続して実施していたが、二十八訂版に伴いチェックリストの一部文言が変更となったため、準拠し改訂した。	2月2日～
3月22日(火)	二十九訂版	大きな変更なし。感染拡大防止を理由として取り消す場合の施設利用料全額返金も当面の間継続。	3月24日～

■令和4年度

発行日	版	施設の取扱いの概要／サポートセンターの運用	適用期間
5月13日(金)	三十訂版	利用料全額返金が6月30日申出分までに変更。	5月18日～
6月30日(木)	三十一訂版	利用料全額返金の記述削除。	7月1日～
7月25日(月)	三十二訂版	利用料全額返金の記述が復活。7月20日申出分から適用。	7月25日～
8月8日(月)	三十三訂版	機械換気による常時換気又は窓開け換気の徹底	8月10日～
9月13日(火)	三十四訂版	イベント開催における留意事項で文言変更あり(例:飲食の制限→飲食時の感染対策など)	9月15日～
9月30日(金)	三十五訂版	利用料全額返金が10月31日申出分まで	10月4日～
10月31日(月)	三十六訂版	利用料全額返金に係る記入を削除	11月1日～
12月1日(木)	三十七訂版	当面の間、感染症拡大防止のためのイベント中止等における施設使用料は全額返還(令和4年11月1日以降に取り消した予約について遡及適用)	12月1日～ 当面の間
令和5年 1月30日(月)	三十八訂版	大声発声の有無による対策の区分け削除	1月30日～
3月10日(金)	三十九訂版	マスクの着用に関する記述を削除。 全額返還の対象を令和5年5月7日利用分までに変更。	3月13日～ 当面の間

(3)施設対応

①施設使用料の返金・使用料の減免

新型コロナウイルス感染拡大防止を理由として利用を取りやめた施設の

使用料を全額返金

・令和4年6月30日(木)申出分まで

・令和4年7月20日(水)～令和5年5月7日(日)利用分まで

※使用料全額返金の期間については、P10「(2)ガイドライン■令和4年度」参照

(4)貸室等への影響

令和4年度の新型コロナウイルス感染拡大防止を理由とする取りやめ・使用変更の件数は、令和3年度に比べて4分の1程度に減少。感染対策をした上で予定通りに開催したり、あらかじめオンラインにしたり、新型コロナウイルスの感染拡大の影響が出ないように市民活動団体が、計画的に対応した結果、取りやめや使用変更となる利用が減少したと考えられる。

■令和4年度の新型コロナウイルス感染拡大防止を理由とする取りやめ・使用変更の推移

使用予定月	取りやめ		使用変更		計	
	件数	予定人数	件数	予定人数	件数	予定人数
令和4年4月	3件	111人	4件	87人	7件	198人
5月	1件	80人	0件	0人	1件	80人
6月	3件	190人	0件	0人	3件	190人
7月	4件	80人	5件	47人	9件	127人
8月	25件	694人	20件	310人	45件	1,004人
9月	12件	206人	12件	173人	24件	379人
10月	10件	495人	0件	0人	10件	495人
11月	2件	100人	3件	45人	5件	145人
12月	7件	228人	2件	18人	9件	246人
令和5年1月	2件	22人	0件	0人	2件	22人
2月	2件	23人	0件	0人	2件	23人
3月	0件	0人	0件	0人	0件	0人
計	71件	2,229人	46件	680人	117件	2,909人
令和3年度	288件	5,389人	153件	2,357人	441件	7,746人

※人数は申込時の使用予定人数より算出

※使用変更は別月へ使用変更したものが対象

2. 場の提供

令和4年度の総利用件数は12,064件(前年度比2,713件増)、利用者総数は37,513人(前年度比12,930人増)であった。情報利用者数(参考値)7,949人を加えた合計利用者数は45,462人(前年度比15,568人増)となった。月ごと・項目別の数字は、集計一覧:資料2「主な項目の利用状況推移」を参照。

総利用件数・人数ともに令和3年度より増加し、コロナ禍以前の数字には届かないものの回復傾向にあると言える。令和2年度、令和3年度と違い利用休止・開館時間の短縮がなかったことも要因にあると考えられる。

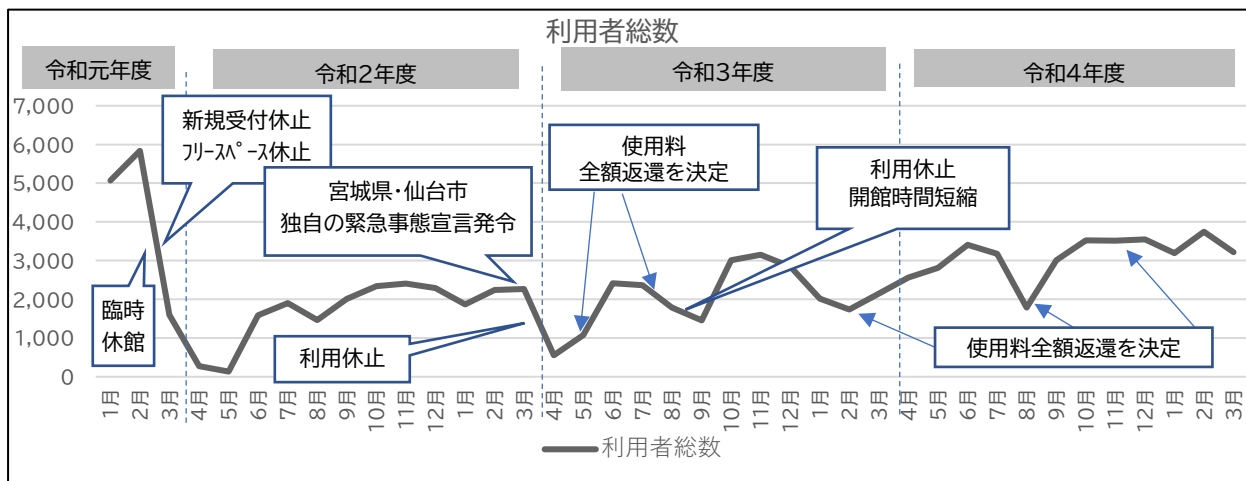
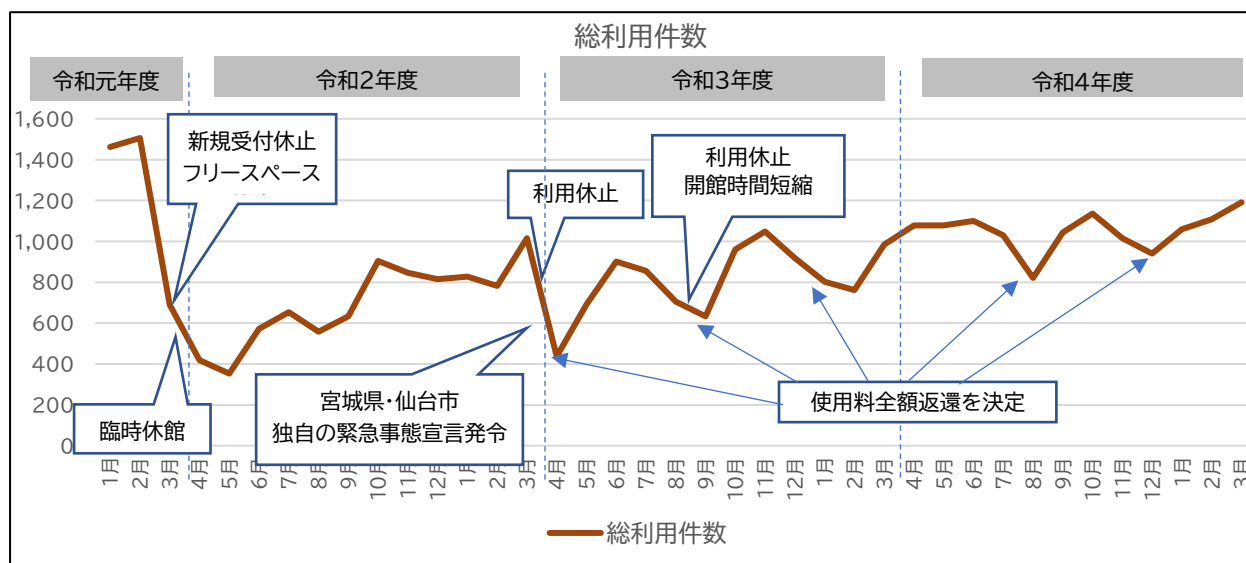
利用件数	件数(件)		
	R2年度	R3年度	R4年度
注1 総利用件数	8,394	9,351	12,064

注1: R2～R3年度の報告に集計の誤りがあり、本年度報告で訂正した。

利用者数	人数(人)		
	R2年度	R3年度	R4年度
利用者総数	20,807	24,583	37,513
情報利用者数(参考値)	5,373	5,311	7,949
合計利用者数	26,180	29,894	45,462

情報利用者数

1階のマチノワひろば利用者やチラシ、ニュースレターなどの情報を閲覧もしくは収集している利用者の数。利用票で集計されるイベントなどの利用者やパソコン利用、図書貸し出しの利用者は含めない。



■利用団体数

「貸室」「交流サロン」の利用団体に、「相談」「ロッカー・レターケース・ブース」の利用団体を加えて集計した施設利用団体総数は 997 団体となった。

ロッカー・レターケース・ブース以外は
団体数が増えている。

施設利用団体数	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
セミナーホール・研修室	417	257	263	314
市民活動シアター	60	16	36	46
交流サロン	423	148	207	290
上記小計(貸室利用団体数)	720	357	404	511
相談	632	520	548	795
ロッカー・レターケース・ブース	105	103	115	113
総計(施設利用団体総数)	1251	789	826	997

重複利用があるため、内訳の各利用団体数計と利用団体総数は一致しない。

貸室や交流サロンについては、新型コロナウイルス感染拡大での休館や開館時間短縮がなかったこと、利用者も新しい生活様式に慣れ、感染対策をしながら利用するようになったことが影響していると思われる。

特筆すべきは、相談サービスを利用した団体数が伸びていることである。相談サービスを案内するチラシを作成したり、スタッフが外出先で PR したり、講座などから相談へとつないだりした結果相談の利用が増えた。

■全館 Wi-Fi の利用状況

全館 Free Wi-Fi の令和4年度利用総数は 2,471 件、利用率は 49%で約半数が Wi-Fi を利用した。コロナ禍を機に、オンライン併用のイベントや WEB 会議が珍しくなくなったことが反映された。

Wi-Fi 利用	貸室・交流サロン利用件数	うち Wi-Fi 利用件数	利用率
合計	5,094	2,471	49%

Wi-Fi 環境改修は令和 3 年 9 月完了、10 月本格運用開始

令和3年度にWi-Fi環境の改修を行ったことで、途切れる・接続できないなどのトラブルは減り、貸室では配信用 PC に有線接続を利用するなど、利用者に活用されている様子が見て取れた。

部屋別の利用率を見ると(集計一覧:資料7-3「Free Wi-Fi の利用集計」参照)、セミナーホール・市民活動シアター・交流サロンで利用率が 50%を超えた。セミナーホールと市民活動シアターは、イベントのオンライン配信のため、交流サロンはクラウドサービスを利用した事務作業やメール連絡等で Wi-Fi を活用することが多いと推察される。

■施設における新型コロナウイルス感染拡大対策 *令和4年度に新たに実施したものはなし

	実施内容	実施期間
館内	アルコール消毒液の設置	以前より恒常的に実施
	アルコール消毒液ディスペンサーを自動噴霧タイプに変更	令和2年7月5日(日)～
	給湯室利用中止、茶器貸出中止	令和2年3月5日(木)～
	印刷機利用団体へ清掃用具貸出	令和2年3月5日(木)～
	非接触型体温計の設置・貸出	令和2年6月5日(金)～
	交流サロンへ清掃用具設置	令和2年9月1日(火)～
	飛沫防止パネルの貸出	令和2年10月5日(月)～
	貸出用検温器の増加(1本→6本)	令和4年2月10日(木)～
窓口	貸出備品の除菌	令和2年3月5日(木)～
	窓口にビニールカーテン取付	令和2年4月9日(木)～
	交流サロン、印刷作業室、利用者パソコン等の利用者に連絡先カード提出依頼	令和2年9月1日(火)～
	「感染対策のお願い」窓口にて依頼(書面)	令和3年7月10日(土)～
掲示	注意喚起文の掲示(健康安全課からの依頼)	令和2年1月28日(火)～
	外国語の注意喚起文の掲示 (健康安全課からの依頼)	令和2年1月29日(水)～
	チラシラックに注意喚起掲示(一度手にしたチラシをラックに戻さないように)	令和2年6月1日(月)～
	厚生労働省接触確認アプリ「COCOA」案内掲示	令和2年6月19日(金)～ 令和4年11月17日(木)
	喫煙所に注意喚起掲示	令和2年11月17日(火)～
市民活動シアター	市民活動シアターCOVID-19ガイドライン作成・配布	令和2年7月15日(水)～
	入場時整列用足形シール設置	令和2年8月12日(水)
	CO2濃度測定器の設置	令和3年9月30日(木)～

2-1. 貸室

市民活動シアターをのぞく貸室の令和4年度の利用状況は、2,490件(令和3年度1,835件)、24,955人(令和3年度16,372人)で、使用率は81%(令和3年度66%)。市民活動シアターも含めた合計は2,585件(令和3年度1,906件)、29,697人(令和3年度19,134人)で、使用率は74%(令和3年度60%)であった。令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大による利用休止、開館時間短縮の施策がなされなかったため、令和3年度よりも増えたものと思われる。

件数は前年度比135%増、人数は155%増となった。利用件数については、概ねコロナ禍前の水準に戻りつつある。人数については、前年度比では伸びているものの、回復が鈍い。貸室の定員いっぱいを利用するケースが少ないためと考えられる。利用者の中で感染対策のために定員に余裕をもつ利用スタイルが定着している。

貸室利用状況	R3 年度(開館日数 335 日)			R4 年度(開館日数 335 日)		
	件数	人数	使用率	件数	人数	使用率
セミナーホール	244	5,592	60%	337	9,523	77%
研修室1	336	1,825	71%	464	2,689	86%
研修室2	443	2,999	80%	571	4,229	93%
研修室3	206	1,122	52%	302	1,895	70%
研修室4	273	1,264	64%	401	1,888	79%
研修室5	333	3,570	70%	415	4,731	84%
地上階貸室計	1,835	16,372	66%	2,490	24,955	81%
市民活動シアター	71	2,762	20%	95	4,742	28%
合計	1,906	19,134	60%	2,585	29,697	74%

臨時休館/利用休止中は貸室の利用自粛を求めたが、希望すれば利用可能であったため開館日数としてカウント

貸室全体の年間使用時間計は令和3年度より2,429時間増の8,867時間となった(集計一覧:資料5「貸室利用状況(部屋別集計)」参照)。曜日・時間別集計では令和3年度に引き続き土曜日・日曜日の利用が多く、水曜日の利用が少ない。土日が休日の人が多いため、団体の集まりやイベントが土日に集中。逆に水曜日は、第2・4水曜日が休館日のため、避ける利用者が多いことが要因と考えられる。18時台以降の利用が少ないように見えるのは、日曜・祝日は18時で閉館するためである。しかし、19時・20時台の利用は12時台より多い。12時台の利用が落ち込むのは、多くの人が昼休憩をとるためと思われる(集計一覧:資料6「貸室利用時間(曜日・時間別集計)」参照)。

また、貸室申込件数が2098件(前年度比123%)と増加している中で、取りやめ件数は97件と令和3年度の40%に減少した。取りやめ件数は、コロナ禍以前は年に30件弱であったことを考えると、まだその水準よりは多いが、新型コロナウイルスの感染拡大が起こるたびに、取りやめが増えることはなくなった。「県内や市内で感染者が増えているから集まりやイベントを止める」といったことは減り、「団体内で感染者が出てしまったため集まりを中止する」というケースが何回か見受けられた。また、新型コロナウイルス感染拡大以外の理由での取りやめもあり、徐々にではあるが、コロナ禍以前の状況に戻ってきている。

貸室 申込件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度 計
R1 年度	192	170	167	199	168	190	185	172	190	206	178	116	2,133
R2 年度	48	26	204	164	142	174	148	141	121	147	145	146	1,606
R3 年度	82	114	144	147	156	113	171	169	141	163	129	178	1,707
R4 年度	197	184	201	179	147	183	175	169	141	170	176	176	2,098
R4 年度の 前年対比	240%	161%	140%	122%	94%	162%	102%	100%	100%	104%	136%	99%	123%

貸室 取りやめ 件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
R1 年度	8	2	1	3	3	4	5	2	3	2	15	84	132
R2 年度	170	78	14	11	24	22	10	4	5	20	7	49	414
R3 年度	51	19	6	10	44	22	1	6	5	33	36	10	243
R4 年度	5	7	1	12	28	12	3	2	15	4	5	3	97
R4 年度の 前年対比	10%	37%	17%	120%	64%	55%	300%	33%	300%	12%	14%	30%	40%

■セミナーホール、研修室

新型コロナウイルス感染拡大対策として、利用者が貸室の定員に余裕をもって利用するようになったため、コロナ禍以前に比べると研修室5やセミナーホールの利用が増えた。10人～20人で利用される研修室1と2の利用率が高い傾向は例年通り。研修室3は、床座のためシニア層の利用者には敬遠されることが多いが、若者が中心の団体の中には、模造紙を広げたり車座になったりできることから好んで利用する団体もある。(集計一覧:資料5「貸室利用状況(部屋別集計)」参照)

■市民活動シアター

市民活動シアター(以下、シアター)の令和4年度(開館日335日)利用状況は、利用日数93日、利用時間850時間、利用率28%といずれも令和3年度を上回った。利用人数も4,742人と令和3年度より伸び、コロナ禍以前の半分程度まで回復した。

利用状況	R2年度	R3年度	R4年度
利用日数	25	68	93
利用時間	193	470	850
利用率	7%	20%	28%
利用人数	800	2,762	4,742

令和3年5月11日～令和4年3月31日まで定員の半数以下での利用については使用料減額の措置が取られた。

曜日別利用状況	月	火	水	木	金	土	日	年間
利用件数	4	8	2	13	11	29	28	95
内自己使用件数	1	4	0	5	4	2	0	16
R4年度年間利用率	8%	16%	7%	26%	21%	57%	55%	28%
R3年度年間利用率	4%	14%	21%	14%	16%	41%	39%	21%

1日に複数の利用がある場合があるので、利用件数は、利用日数を上回る。

利用件数は95件(うち自己使用16件)、年間利用率は28%だった。例年通り、土日の利用率が高かった。また、令和4年度は劇団の利用が何度かあったため、仕込み作業にあたる木・金曜日の利用率も令和3年度より高くなった。

利用団体数は前年度比10団体増の45団体、内訳は表の通り。多様な団体に利用されているのが特徴である。使用内容では、新型コロナウイルス感染拡大で減少していたシンポジウム・講演会、交流イベントなどが増加。コロナ禍以前の使用内容に戻りつつある。

利用団体種別	団体数		
	R2年度	R3年度	R4年度
NPO	1	9	7
愛好会・グループ	9	11	13
市民劇団	2	2	3
実行委員会	1	2	3
教室	0	1	3
企業	2	3	3
各種団体	0	3	10
個人	0	4	3
利用団体合計	15	35	45
自己使用	1	1	1
合計	16	36	46

使用内容	開催件数			
	R3年度	割合	R4年度	割合
シンポジウム・講演会	5	7%	18	18%
交流イベント	8	11%	17	17%
演劇	3	4%	7	7%
コンサート	15	21%	14	14%
上映会・展示会等	11	15%	17	17%
発表会	3	4%	6	6%
リハーサル(稽古)	19	26%	3	3%
仕込・撤収	1	1%	11	11%
撮影・録音・配信	8	11%	7	7%

使用内容は複数回答にて集計。

2-2. 交流サロン

交流サロンは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和3年度に続き、テーブルを間引きし 9 テーブル 40 席で運用した。

令和 4 年度の交流サロン利用

は、件数 2,509 件(前年度比 857 件増)、人数 6,045 人(前年度比 1,905 人増)と令和 3 年度より増加したが、コロナ禍以前の令和元年度と比較すると、件数では5割、人数は4割程度にとどまった。

しかしながら、2 月・3 月頃には利用件数が 250 件を超え、人数も 600 人を超えた。全テーブルが埋まる時間帯も見られるようになり、コロナ禍以前の賑わいに近づいてきた。

交流サロン利用	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
件数	5,411	1,186	1,652	2,509
人数	14,879	2,508	4,140	6,045

交流サロン 利用件数	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
R1 年度	533	447	534	519	486	478	475	455	451	449	524	60
R2 年度	0	0	0	0	0	60	143	202	190	158	210	223
R3 年度	0	71	152	158	118	71	169	202	173	154	177	207
R4 年度	209	203	224	194	132	190	228	211	195	206	274	243
R4 年度の 前年対比	—	286 %	147%	123%	112%	268 %	135%	104%	113%	134%	155%	117%

交流サロン 利用者数	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
R1 年度	1,459	1,197	1,513	1,386	1,297	1,302	1,276	1,497	1,237	1,177	1,379	159
R2 年度	0	0	0	0	0	90	292	414	384	320	504	504
R3 年度	0	161	377	411	301	177	450	527	404	401	404	527
R4 年度	565	500	500	513	287	468	543	493	446	478	649	603
R4 年度の 前年対比	—	311%	133%	125%	95%	264%	121%	94%	110%	119%	161%	114%

令和 2 年 3 月 4 日～交流サロン含むフリースペースの利用休止、4 月 11 日～5 月 31 日臨時休館

令和 3 年 3 月 27 日～5 月 11 日サポートセンター利用休止、8 月 20 日～30 日・9 月 13 日～9 月 30 日 20 時閉館・1F3F のフリースペース利用休止、8 月 30 日～9 月 12 日 17 時閉館・利用休止

交流サロンの利用形態では、令和3年度に引き続き件数・人数ともにスタンダードスペースの利用が多かった。以前は利用頻度の高かったアクティブスペースのテーブル数を新型コロナウイルス感染拡大対策で減らしているため、スタンダードスペースの利用件数が多くなった。スタンダードスペースは、アクティブスペース(4名)よりも多い人数(6名)で利用できるため、利用人数もアクティブスペースを上回った。(集計一覧:資料7-2「交流サロン種別集計」参照)

2-3. 共同事務室(事務用ブース)、ロッカー、レターケース

■事務用ブース

◆第 24 期事務用ブース入居団体◆(承認期間:令和 4 年 9 月～令和 5 年 8 月)
令和 5 年 3 月末時点
 ・ブース No.5 NPO 法人水・環境ネット東北

事務用ブースは、第 23 期(承認期間:令和 3 年 9 月～令和 4 年 8 月)では継続して 2 団体が入居していたが、令和 5 年 1 月で期間満了につき 1 団体が退去。残る 1 団体も同年 8 月をもって期間満了となる。

仙台市は、入居希望者の利便性に配慮し、令和 5 年度より事務用ブースの入居受付を通年募集とし、入居時期も年 3 回に変更とすることとした。

入居団体は減少したものの、利用状況は件数・人数ともに令和3年度を上回る結果となった。団体の活動がオンライン中心から、事務ブースでの作業・打合せも行われるようになったことが利用件数・利用人数の増加につながった。

事務用ブース利用状況	R3 年度	R4 年度
利用件数	167 件	200 件
利用人数	245 人	334 人

(1)情報交換会

令和3年度に引き続き感染予防対策を徹底したうえで、入居団体が個々に持つ資源や情報を入居団体同士で交換するための「情報交換会」を実施した。令和 4 年度は 6 月と 12 月に開催。いずれの回も入居団体に加え過去に入居していた団体にも声がけし、情報交換および今後の活動の方向性など説明いただき、活発な意見交換を行った。

○令和 4 年 6 月 14 日(火)

- ・入居団体 2 団体、過去入居団体 3 団体 計 5 名、
 市民協働推進課 1 名、サポートセンタースタッフ 2 名
- ・団体の活動報告、今後の予定、情報交換・交流、次期募集について、
 施設運営の説明など

○令和 4 年 12 月 19 日(月)

- ・入居団体 2 団体、過去入居団体 1 団体 計 3 名、
 市民協働推進課 1 名、サポートセンタースタッフ 2 名
- ・団体の活動報告、今後の予定、情報交換・交流、施設運営の説明など

■ロッカー、レターケース

ロッカー、レターケースは第24期(承認期間:令和4年9月～令和5年8月)の募集を行った。募集数は、大16台・中28台・小60台。応募数が設置台数を超えなかったため、1団体2台まで利用可(ただし、台数の少ない大の2台使用は不可)として二次募集を行った。

令和4年度のロッカー年間平均使用率は全体では69%(内訳:大91%・中91%・小44%)。大は募集後に1台不具合が出たため、実際は15台での運用となったため使用率が下がったが、中はやや数を伸ばした。小は前年をさらに下回った。

レターケースの平均利用率は47%と令和3年度に続き減少している。取次件数は令和3年度に比べ微増したものの(令和3年度取次件数1,424件、令和2年度1,476件、令和元年度1,990件)コロナ禍前の7割程度で変化はない。ペーパーレス化や、コロナ禍を経てメールやオンラインでのやりとりが普及した結果の表れと見られる。

年平均利用状況	設置数	R3年度	R4年度
ロッカー	大(16台)	100%	91%
	中(28台)	87%	91%
	小(60台)	53%	44%
	計(104台)	69%	64%
レターケース	168	51%	47%

レターケース 取次件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	R3年度
郵便	155	179	127	93	70	79	95	90	86	172	83	141	1,370	1,359
FAX	8	3	15	1	1	1	0	2	10	2	14	10	67	65
計	163	182	142	94	80	80	95	92	96	174	97	151	1,437	1,424

■活動報告書

ロッカー、レターケース利用団体には年2回、事務用ブース利用団体には年4回活動報告書を提出していただいている。提出された活動報告書は、サポートセンター3階の情報サロンで、市民が閲覧できるように公開している。同じく3階で公開されている「団体情報ファイル」が市民活動団体のアーカイブとして、現在の活動状況に関わらず団体情報をストックしている一方で、活動報告書は、現在活動していることが確実な団体の情報を探している市民等に活用されている。

また、活動報告書に記載された団体の課題などに基づき、サポートセンターから必要な情報(例えば、助成金情報や組織運営課題解決のための講座の情報など)を提供した。特に令和4年度は、活動報告書に記載された団体の課題分析を行った結果に基づき「動画制作講座」を実施した(P61～「6. 事業報告 事業3 人材育成事業」参照)。

令和4年度に提出された活動報告書の内容からは、高齢者対象の活動、スポーツや芸術文化などリアルでの体験が重要な活動はオンラインへの移行の難しさを感じている様子がうかがえた。また、多くの団体で新規会員獲得が課題に挙げられていた。コロナ禍で活動休止や規模縮小が余儀なくされている中、団体をPRすることが難しい状況があるものと思われる。

提出方法については、郵送・メールもあるものの、来館時に窓口で提出する団体が増えてきている。

2-4. パソコン、印刷機、コピー機

■パソコン

令和 4 年度の利用者パソコン利用件数は、前年度比 30 件増の 129 件で、コロナ禍以前と比較すると 2 割に満たない。感染予防のため他人とモノを共用することを忌避した習慣の影響もあるだろうが、何よりも PC やスマートフォンを 1 人 1 台は持つ時代にあって、ニーズ自体が減っていると思われるべきであろう。

パソコン 利用状況	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
合計	900	738	70	99	129

■印刷機

令和 4 年度の印刷機利用件数は 522 件(前年度比 139 件増)、枚数 441,892 枚(前年度比 50,167 枚増)となった。令和 4 年 2 月 24 日より設置を 1 台とした状態でも、利用者が何人も待機するような状況は生じていない。

印刷機 利用状況	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
利用件数(件)	1,064	954	351	383	522
利用枚数(枚)	1,041,908	946,636	333,893	391,725	441,892

印刷物の内訳をみると、チラシと
その他(総会資料など)が令和3年
度より増加した。リアルで集まる機
会が増えてきたことの表れとみら
れる。一方でニュースレターは微減
した。誤差とも考えられるが、オン
ラインでの情報公開・共有が広がっ
ている影響も考えられ、今後の動
向を見ていきたい。

印刷機	印刷物の内訳		
	チラシ	ニュースレター	その他
4 月	8	7	35
5 月	16	8	32
6 月	13	7	31
7 月	14	9	30
8 月	5	11	16
9 月	20	8	18
10 月	16	9	20
11 月	14	8	19
12 月	20	9	18
1 月	5	7	16
2 月	9	7	25
3 月	13	8	21
計	153	98	281
R3 年度	102	100	194

■コピー機

令和 4 年度のコピー機利用枚数は 6,824 枚(前年度比 3,698 枚増)であった。コピー機は、コピー機のみで利用されることはまれで、貸室やフリースペース、印刷機と同時に利用されることが多い。貸室・フリースペース・印刷機の利用件数増加に伴い、コピー機利用も増加した。

コピー機 利用状況	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
利用枚数(枚)	10,217	13,614	4,789	3,126	6,824

3. 情報の収集・提供

3-1. 情報揭示等利用

市民活動団体のチラシ、ポスター、ニュースレターなど情報揭示利用累計件数は 2,913 件で、前年度比120%と増加した。それぞれ令和3年度と比べると、ポスターが55件増加し、チラシは442件と大幅に増加。ニュースレターは 2 件減少した。コロナ禍における感染症対策が定着したことで、安全対策を施したり、オンラインを駆使したりで、イベント開催が増加したことがうかがえる。加えて、令和4年度はポスターの件数が伸びた。ポスターという広報手段からは、イベント規模の拡大がうかがえる。イベントが活発

になった一方、令和元年度からニュースレターの発行は減少傾向にあり令和4年度も回復していない。減少の背景として、【P33 4.相談・問い合わせ対応】と合わせて見てみると、高齢化や世代交代など活動継続に課

題を抱えていた団体が解散に至ったり、事務作業の簡略化を図ったりしたこと、また、会員への活動報告の手段をオンライン化するなど様々な変化が関係していることが推測される。

「市民活動イベント揭示板～仙台に情報の背骨を通すプロジェクト～」は、令和2年10月から、「仙台に情報の背骨を通すプロジェクト(通称:骨プロ)」をリニューアルしたもの。受け付けた市民活動団体のイベントチラシ画像をサポートセンターのホームページ上に揭示し、希望により各連携施設への配送も行った。

チラシ・ポスターの件数増加とともに、揭示板の利用も前年度比 155%と増加した。ホームページ掲載のみ希望が令和3年度 87 件だったのに対し、令和4年度は 59 件と減少した。一方、各連携施設への配架のみ希望は令和3年度の 53 件から 114 件と増加。ホームページ掲載+各連携施設への配架双方を希望したのは令和3年度 226 件

に対し令和4年度 393 件となった。新型コロナウイルス感染拡大による影響が長期にわたる中で、ウェブによる情報発信が常態化し、紙媒体での情報発信自体が減少したように思われたが、令和4年度は、新型コロナウイルス感染拡大の収束が見えてきたことで紙媒体での発信が大きく増加した。

情報揭示等利用件数	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
注1 チラシ	2,161	注2 1,152	1,261	1,703
ポスター	280	124	139	194
ニュースレター	1,159	1,039	1,018	1,016
計	3,600	2,315	2,418	2,913

注1:R2～R3 年度のチラシ合計に重複があり、R2～R4 年度分を本年度報告で訂正した。

注2:R2 年度のチラシ合計は、市民活動イベント揭示板の「利用件数」を加算。(資料3 参照)

揭示板 利用件数	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
年度計	763	注3 163	366	566

注3:R2 年度は「市民活動イベント揭示板」の令和2年10月～令和3年3月の利用件数

揭示板 各種利用件数	R3 年度	R4年度
ホームページ+連携施設配架	226	393
ホームページのみ	87	59
連携施設配架のみ	53	114

■骨プロ(市民活動イベント掲示板)参加施設 (令和5年3月末時点 10 施設)

連携団体は、チラシの配架と施設ホームページ内に「市民活動イベント掲示板」のリンクバナーを設置。

せんだいメディアテーク

※令和4年8月9日(火)から10月31日(月)まで施設改修工事による休館につき、チラシの配架受付を一時休止した。

日立システムズホール仙台

エル・パーク仙台

エル・ソーラ仙台

仙台市ボランティアセンター

のびすく仙台

のびすく泉中央

のびすく長町南

せんだい環境学習館 たまきさんサロン

仙台市市民活動サポートセンター

3-2. 団体情報の蓄積

団体情報は、サポートセンターに持ち込まれたチラシ、マチノワひろばやギャラリー申し込み時に提出された団体紹介シートを保存し蓄積してきたもの。サポートセンター利用団体を軸にした市民活動団体の活動の軌跡である。これらのファイルは、市民活動団体の活動状況のアーカイブとしての機能を果たしている。

令和5年3月末時点での団体情報ストック数は県内外あわせ4,966団体で、令和4年度に新たにサポートセンターに情報を持ち込んだ団体は48件。なかでも「福祉」が12件、「文化・芸術」が11件と多かった。新型コロナウイルス感染拡大の影響で浮き彫りになった様々な社会課題を解決する活動に限らず、新たな活動が立ち上がるなど、活動の拠点として、既存の活動団体が新たにサポートセンターを利用するようになった。

分野	情報利用 *1			
	団体数	構成比	県内	県外
福祉	572	12%	492	80
健康・医療・スポーツ	496	10%	419	77
環境	637	13%	446	191
まちづくり	630	12%	557	73
子ども・教育	629	13%	508	121
人権・ジェンダー	386	8%	279	107
国際交流・協力	346	7%	217	129
文化・芸術	738	15%	650	88
市民活動支援	342	7%	107	235
その他	190	4%	153	37
計	4,966	100%	3,828	1,138
R3 年度累計蓄積数	4,918		3,782	1,136
前年度比	101%		101%	100%

*1 情報利用：団体情報の蓄積

3-3. 市民活動団体への情報提供

市民活動に役立つ情報をテーマごとに編集した「市民活動お役立ち情報」を利用者向けに提供した。館内のチラシラックに配架し、自由に持ち帰ることができるほか、ホームページからもダウンロードできるようにした。

令和4年度は「お役立ち情報」の改訂を行い、旧版から新版への入れ替えを実施した。改訂においては、市民活動を「知る-立ち上げる-運営する」という流れに合わせて再構築した。

新	旧
1. NPOって何だろう？	1. NPOって何だろう
2. 規約の作り方	7. 規約の作り方
3. イベント実施のノウハウ	12. イベント実施ノウハウ
4. 企画書作成のポイント	13. 企画書作成のポイント
5. チラシを作るコツ	11. チラシを作るコツ
6. 助成金のいろは	6. 助成金のいろは
7. 活動報告書の作り方	8. 報告書の作り方
8. 情報発信のプラスアルファ	9. メディア活用大作戦 10. 名義後援の取り方

市民活動お役立ち情報(新版)印刷状況(令和4年度累計)

No.	テーマ	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	
					旧	新
1	NPO って何だろう？	350	190	30	40	250
2	規約の作り方	380	190	30	40	250
3	イベント実施のノウハウ	400	190	30	40	250
4	企画書作成のポイント	380	190	30	40	250
5	チラシを作るコツ	460	210	50	40	270
6	助成金のいろは	440	300	25	30	250
7	活動報告書の作り方	310	190	30	10	200
8	情報発信のプラスアルファ※1	300	190	35	20	100
		290	240	0※2	10	
	チラシ・ポスターを置けるスペース	470	210	50	40	廃止
	市民活動団体が利用できる機材一覧	0※2	190	0※2	20	
	仙台市内ホールマップ	390	190	40	40	
	ボランティア相談窓口	360	320	10	40	
合計		4,530	2,800	360	410	1,820

※1 「8. 情報発信のプラスアルファ」は旧版の「9.メディア活用大作戦(上段)」と「10.名義後援の受け方(下段)」を統合してリニューアルを行った。

※2 「令和元年度「市民活動団体が利用できる機材一覧」および令和3年度「市民活動団体が利用できる機材一覧」と「名義後援の受け方」は更新作業を実施したため新規印刷をしていない。

■動画版「市民活動お役立ち情報」

2本の動画を動画版の「市民活動お役立ち情報」として、YouTubeチャンネル「サポセンちゃんねる」に投稿した。

○「サポセンって何だろう？～もっと知りたい！仙台市市民活動サポートセンター～」

投稿日：令和4年8月17日(水)

内容：サポートセンターについて知ってもらうことを目的として、サポートセンターの機能やサービス、指定管理について解説。

視聴回数：132 回(令和 5 年 3 月末現在)

○「NPOって何だろう？」

投稿日：令和5年2月23日(木)

内容：紙版の市民活動お役立ち情報「1. NPOって何だろう」の内容をもとに、「NPO」という言葉の意味や社会的な立ち位置などについて解説。

視聴回数：55 回(令和 5 年 3 月末現在)

3-4. 図書の貸出

令和4年度の図書貸出件数は69件(前年度比97%)、貸出冊数は93冊(前年度比80%)だった。新型コロナウイルス感染拡大の影響による利用制限はなかったが、貸し出し件数・冊数ともに令和3年度より減少した。一方、登録者数は25人(前年度比147%)と増加。これまで利用していなかった人たちにサービスの存在が

伝わり、実際に活用された。借りられた書籍の種類では、市民活動の始め方や団体運営等に関するNPO関連全般と、人権やジェンダーがそれぞれ23冊、次いで福祉分野のものが14冊と多かった。また、利用団体から活動報告書や出版物の寄贈があり、市民活動や社会課題に関する情報の受発信の機会となった。

図書登録者数 貸出件数	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
登録者数(人)	28	13	17	25
貸出件数(件)	97	53	71	69
貸出冊数(冊)	129	72	116	93

■図書の展示のテーマ

現在1,000冊ほどの蔵書があるが、すべての書籍を設置するスペースはないため、一部の書籍を1階で展示し閉架分については蔵書リストにて案内している。展示書籍は月1回変更し、本を通じて様々な分野の課題や活動に触れてもらう機会をつくってきた。展示する書籍の選定は、社会情勢に加え、事業に関連したものとした。事業参加等で来館した人の関心に合わせ、役立ててもらおうと共に、書籍をきっかけに事業への関心を高めてもらえるよう工夫した。

月	展示内容 ()内はマチノワギャラリー、ひろば、事業等の関連事項
4月	仙台の市民活動の歴史、仙台散策や街歩き、依存症やメンタルケア
5月	自死予防やゲートキーパー、支援者のケア、障害・病気等の当事者支援
6月	障害者、福祉とアート、子育て支援(ギャラリー:障害者サポーターズ Golazo!)
7月	防災、化学物質過敏症や発達障害、地元学(ギャラリー:みやぎ化学物質過敏症の会〜ぴゅあい〜/事業:地域メディア談話室)
8月	新着図書、平和、プロボノ、企業の社会貢献活動やSDGs、組織経営書、アートと医療、福祉と地域活性(事業:ソーシャルハブ中間報告会、いづいっちゃんねる)
9月	資金調達、NPOの広報、防災・減災(事業:会計講座、地域メディア談話室)
10月	ボランティア概論、プロボノ、手仕事や伝統文化、活動報告書(事業:ソーシャルハブ、コトハジメ塾、ぱれっと/ギャラリー:カード織あかつき会)
11月	全国の地域活動事例、会計、ホームレス・女性や子どもの困窮、HIV(ギャラリー:世界エイズデーやろっこ/事業:いづいっちゃんねる、会計講座、地域メディア談話室)
12月	寄付活動、環境問題、地元学や街歩き、障害者とスポーツ、コミュニティマネジメント(ギャラリー:寄付月間/ひろば:宮城野原案内人の会)
1月	協働、都市計画、福祉と地域コミュニティ、震災関連、組織運営、団体の周年記念誌、戦争(ギャラリー・ひろば:一般社団法人 ReRoots/事業:協働ゼミ)
2月	新着図書、気候変動、国際交流・支援資金調達(ギャラリー:Fraturdays For Future Sendai/事業:サポセンユースフェスタ、ぱれっと、いづいっちゃんねる、会計講座)
3月	新着図書(追加あり)、復興支援、東日本大震災の記録関連、防災・減災(ひろば:3.11オモイデアーカイブ)

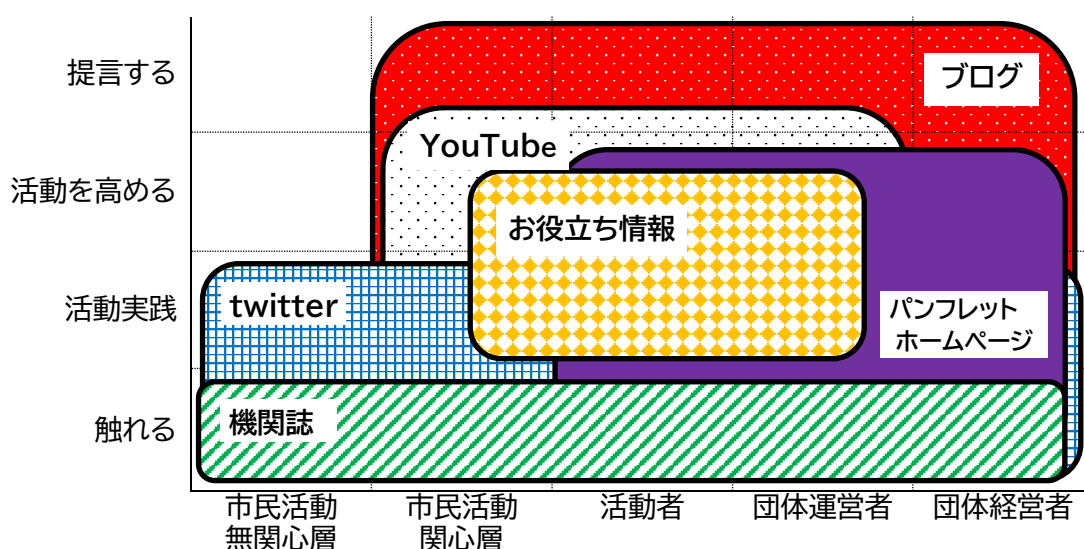
※マチノワギャラリー、マチノワひろばの展示内容、ぱれっとの掲載内容については

P52〜「6.事業報告 事業1 情報収集提供事業 実施概要」参照

3-5. 情報発信

より多くの方へサポートセンターの情報や、市民活動・協働によるまちづくりに関する情報を届けるため、対象を市民活動無関心層から団体経営者層までの 5 段階に分け、それぞれに効果的なツールを用いて発信した。

これまでサポートセンターが培ってきた広報戦略のノウハウは、広報に課題を抱える他機関にも役立てられている。生涯学習支援センターが主催する、市民センター職員等を対象としたスキルアップ研修では、「広報講座」の依頼を受けており、令和 4 年度で 8 回目となった。講座に出向くことで、他機関にサポートセンターの機能や連携の窓口を PR することにもつながっている。



(1) サポートセンター通信『ぱれっと』の発行

多様な主体の協働によるまちづくり事例や、様々な市民活動情報に触れてもらうために、誰もが手に取りやすいフリーペーパースタイルで発行した。市民活動無関心層から団体経営者層まで全ての層を対象としながらも、特に 10～40 代の無関心層から活動者層をターゲットに制作。活動を始めたばかりの若者や、自分の好きなことや関心ごとから活動に至った人などを積極的に取り上げ、市民活動を身近に感じてもらい、活動に取り組む若者を増やすことを目指した。

令和 4 年度は、普段からサポートセンターを利用している団体や、サポートセンターでの伴走相談がきっかけで活動をスタートさせた人などを中心に紹介。ぱれっと掲載をきっかけに、活動が他のメディアで取り上げられたり、活動者のモチベーションアップに貢献したりと、日ごろの相談対応と掛け合わせながら活動を支援できた。また、20 代活動者から「自分もいつかぱれっとに取り上げてもらいたいと思っていた」という声が寄せられたこともあり、若い活動者の関心を得られていることがわかった。(集計一覧: 資料 11「サポートセンター通信『ぱれっと』発行状況」参照)

『ぱれっと』コーナー名	概要
ワクワクビト	仙台の街をワクワクさせる人物を「ワクワクビト」として紹介。「人」に焦点をあて、その人自身の活動に対する思いや取り組む社会課題を発信。
ちまたのコラボ(協働)	企業、NPO、行政、商店街、教育機関などがコラボレーションし、地域の課題解決や魅力向上に取り組む事例を紹介。
市民活動 突撃レポート	市民活動団体について紹介。
今、私にできること	災害時など有事に立ち上がった取り組みの事例紹介。
お役立ち本	サポートセンター図書コーナーから活動に役立つ本を紹介。
コトハジメ	「地域のために何かしたい、何か始めたい」という人たちのはじめの一步になる活動を紹介。
活動に+ (プラス)	活動をレベルアップさせるようなお役立ち情報を紹介。
募集して☑	市民活動やボランティアを支えるヒト、モノ、コトなど募集中の情報を掲載。
このたびカタチになりまして	記念誌や調査報告、MAP や書籍など活動の成果物を紹介。
私のあしあと	サポートセンターの事業参加者による体験談等
気になる〇〇	読者自身が今気になっている社会課題や実践しているちょっと社会にイイコト等を投稿し、他者の一步を後押し。

(2) ホームページの管理

ホームページでは、サポートセンターの機能紹介と事業に関する告知等を行った。ユニークユーザーは 37,778 件(令和 3 年度 20,777 件。前年度比 182%)。ページビューは 128,176 件(令和 3 年度 98,757 件。前年度比 130%)と、令和 3 年度を上回った。(集計一覧:資料 10「ホームページ アクセス件数集計表」参照)。

令和 5 年 3 月 22 日に検索エンジンで「仙台市市民活動サポートセンター」と検索した際の検索結果画面に異変(悪意のある書き換え)が発見されたため、復旧作業およびパスワード強化などの対策を行った。その後、検索エンジンの復旧手順にかかる期間であった 3 月 24 日～26 日にかけて急激なアクセス上昇が見られたが、3 月 27 日には例年通りの数値に戻った。

急激にアクセスが上昇した令和 5 年 3 月を除いても、全体的にアクセス数は増加した。理由としては、サポートセンター主催事業の実施回数増加や、新型コロナウイルス感染拡大の収束を見据えた活動者の増加が考えられ、これによって新規利用者、つまりは市民活動を始めてみたい人からの情報検索が増えたのではないかと推測される。

よく見られるページは、トップページの次に「イベント・講座の案内」が多く、サポートセンター主催事業(イベント・講座)の情報をブログやツイッターと連携したことで、多くの人に拡散されたと考えられる。

(3) ブログの管理

サポートセンターの日常的な情報発信ツールとして、主催事業の告知や実施報告のほか、市民活動団体のイベント情報、ボランティア情報、助成金情報などを掲載した。広報戦略の中の位置付けとしては、市民活動関心層から団体経営者層までを幅広く対象としており、ブログの内容は、市民活動への気軽な参加につながるような情報から、組織の運営や資金調達など活動継続に必要な情報まで様々な内容を掲載した。

令和 4 年度は、伴走相談を行ってきた団体の発表の場や、新しく始まった活動の現場にスタッフが直接足を運ぶ機会が多かった。その様子を記事にし、29 件発信(令和 3 年度 15 件)。活動の様子を、具体的に伝えることで、活動に関心を寄せていながら一歩踏み出せずにいた人が安心して参加できるきっかけになったり、地域で生まれた取り組みの情報に触れた人が地域に興味を持つようになったり、協働のパートナーを探している活動者が情報を得たりするツールにできた。また、ブログの反響から、自分たちが取り組む社会課題について知ってもらうことや、日ごろの活動発信の重要性を団体に実感してもらえた。

公開した記事数は令和 3 年度より 77 件少ない(前年度比 81%)にもかかわらず、訪問者数(ユニークユーザー)前年度比 95%、閲覧数(ページビュー)前年度比 101%と、令和 3 年度とほぼ同水準となった。

サポートセンターのブログに掲載されたことがきっかけでブログを閲覧するようになった利用者からは「色々な団体の情報が載っていて楽しい」という声が寄せられたり、日頃サポートセンターのブログを見て情報収集しているメディア関係者からは「この団体を紹介して欲しい」との問い合わせが入った。事業間の連携によって収集できた、多様で鮮度の高い情報を、市民活動について広く知ってもらうための情報発信に活用できた。

また、令和 3 年度に引き続き市民ライターの活躍の場としてもブログを活用。市民ライター4名が「いづいっちゃんねる」の視聴レポートを寄稿した。さらに、令和 4 年 9 月には、社会教育士を目指す仙台白百合女子大学の学生らが「いづいっちゃんねる」の視聴レポートの執筆に挑戦。その内容を「大学生の目線から『いづいっちゃんねる』を観た私が思うこと」と題し発信した。

ブログ投稿記事数およびアクセス数			
R4 年度	記事数	訪問者数 (ユニークユーザー)	閲覧数 (ページビュー)
4 月	26	5,938	96,839
5 月	19	5,824	84,572
6 月	26	5,951	82,316
7 月	24	5,439	75,868
8 月	28	5,073	81,919
9 月	25	5,345	77,913
10 月	41	5,296	83,165
11 月	29	5,443	81,251
12 月	29	4,439	71,939
1 月	23	7,938	69,215
2 月	22	4,508	68,934
3 月	30	4,333	54,170
計	322	65,527	928,101
R3 年度	399	69,073	918,717

(4)twitter の管理

ホームページ、ブログの更新状況等、サポートセンターからのお知らせを拡散させるため twitter を運用した。

フォロワー数は、令和 3 年度末時点で 662 人だったのに対し、令和 4 年度末には 916 人まで増加。ぱれっと掲載団体や、その他の市民活動団体、過去のサポートセンター主催事業参加者等からのフォローがあり、「ツイッターでサポートセンターの情報を入手している」「ツイッターで流れてきた情報が気になって来館した」という人もいた。また、リツイートによって様々なキーワードから情報が見られる機会につながり、市民活動無関心層へ情報を届ける重要な役割を果たした。

(5)YouTube チャンネル「サポセンちゃんねる」の管理

市民活動や協働に関する情報を動画でも発信することで、市民活動のすそ野を広げ協働の理解促進を図るとともに、市民活動団体等の活動や企業等における社会貢献活動等を支援した。

令和 4 年度は新たに 6 本の動画を公開(令和 3 年度 3 本)。チャンネル登録者数は、令和 3 年度末 20 人に対し、令和 4 年度末には 30 人に増加。その他、TOHOKU360 とサポセンが協働で行うインターネット配信番組「いづいっちゃんねる」を再生リストへ随時追加し、視聴を促した。

<令和 4 年度公開した動画ごとの視聴回数(令和 5 年 3 月末現在)>

公開日	動画名	視聴数
令和 4 年 5 月 5 日	【協働の現場トーク！】 学生団体と企業・市民活動団体の協働	45 回
令和 4 年 8 月 17 日	サポセンって何だろう？ ～もっと知りたい！仙台市市民活動サポートセンター～	132 回
令和 4 年 10 月 24 日	【協働の現場トーク！】 地域に根ざした地元企業とさまざまな担い手との協働現場から	106 回
令和 5 年 2 月 3 日	NPO って何だろう？	55 回
令和 5 年 3 月 3 日	【協働の現場トーク！】 思いを未来につなぐ協働 3.11 キャンドルナイトの協働現場から	50 回
令和 5 年 3 月 20 日	【動画制作講座】参加者制作動画 「サポセンの魅力って何？」	75 回

これらの動画は、サポートセンターの他事業にも活用した。令和 4 年 12 月からスタートした連続講座「協働ゼミ」では、協働に関する基本的な知識を事前に予習してもらうために、「はじめての協働」の視聴を推奨。その後の自主学習の教材として、多様な主体による協働事例を知ることができる動画「協働の現場トーク！」を活用した。また、令和 4 年 9 月に社会教育士を目指す学生らの研修を受け入れた際には、サポートセンターの概要を理解してもらうために「サポセンって何だろう？～もっと知りたい！仙台市市民活動サポートセンター～」を利用するなど、いつでも視聴できる強みを生かした。

(6)NPO 法人向け助成金情報メールマガジンの運用

仙台市からの依頼で、仙台市内の NPO 法人に対し、団体の資金調達の機会を増やすことを目的とした、助成金情報をタイムリーに届けるメールマガジンを、令和 4 年 11 月 15 日から運用開始した。

毎週火曜日に発行し、毎回 5～10 件程度の助成金情報や、サポートセンターの講座案内など NPO 法人にとって有益な情報を掲載した(年間の情報掲載件数のべ 148 件)。市内の NPO 法人がサポートセンターを訪れた際に、「資金調達をするためサポートセンターのメールマガジンを活用している。知らない助成金情報も多く、とても役立っている」との感想も寄せられた。

令和 4 年度末時点の登録者数は 86 件。メールマガジンの運用開始時に、仙台市より所管の NPO 法人全てに郵送で案内を送付した他、サポートセンターでも助成金相談の際などにチラシを手渡しして、徐々に登録者数が増えてきている。

4. 相談・問い合わせ対応

(1) 目的

市民活動支援施設として、①施設の活用を含めた利用相談(施設利用)、②市民活動に関わる情報発信及び収集支援(施設サービス)、③専門性を要する市民活動を行う上での個別の運営等の相談(活動相談)を実施し、個人から団体、行政や企業など幅広い主体者に対し、情報の提供や経営相談など専門的な幅広い支援を行った。

(2) 概要

施設開館時間内に、予約の有無を問わず、市民活動に関わる相談を無料にて実施した。

主に窓口にて行う施設利用判断や市民活動団体の情報提供と、NPO法人の立ち上げや団体運営や資金調達など個別の事案に対して、窓口や電話を問わず相談対応する個別対応がある。

(3) 集計方法に関して

相談事業の集計項目は、相談者主体については、市民(個人)、市民活動団体、町内会、企業(営利組織)、大学(教育機関)、行政、その他に分類。また、対応内容については、自立、連携、創発、情報、その他に分類した。集計結果については次の3種類の方法で行った。

① 相談サマリー

貸室利用やチラシ配架など、施設利用の問合せを【窓口】、活動内容や運営相談などを【相談】、これらに当てはまらない対応を行った場合に【その他】、事業参加者の所属を集計する【事業】に分類。事業参加者の意見も合わせて記録することにより、利用者サービスの向上に役立てている。ただし、センター事業に複数回参加した場合はカウントされないため、各事業参加者の総数と相談サマリーにおける【事業】集計は一致しない。

② 相談集計結果【主訴－相談主体】

上述の相談サマリーのうち【相談】について、相談主体の属性と相談主訴を詳細に集計した。自立・連携・創発の理念に基づいた12項目と細かい分類を行うことで、相談主体の状況に合わせた対応記録と、より具体的な相談の傾向を把握し、相談ニーズの分析を目指した。

横軸の【伴走】については、サポートセンター事業「伴走型相談による個別相談」該当候補の相談に関して、新規相談もしくは継続対応について集計した。

③ 相談集計結果【内容－相談者】(複数選択あり)

例えば、NPO法人と協働する団体が同席した対応や、団体の立ち上げ相談の内容から助成金の相談に移行した場合など、複数の属性や内容を集計していなかった。そこで、対応した全ての内容・相談者を記録し、かつ複数選択を含めることで、柔軟に対応する集計を行った。

(4) 成果

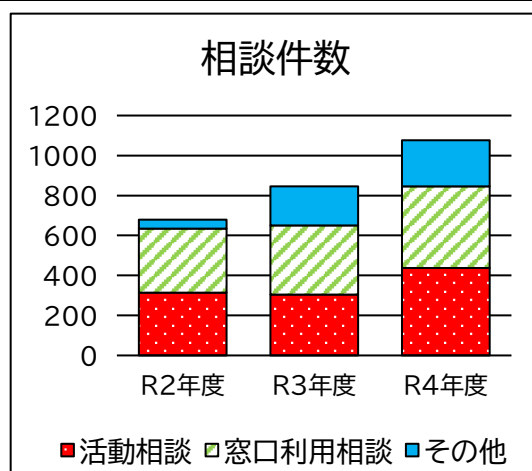
① 相談件数

令和4年度の相談件数は1,077件と、令和3年度の845件から大幅に増加。新型コロナウイルス感染拡大前の令和元年度の763件と比較すると1.4倍超に増加した。相談の内訳は「活動相談」437件、「窓口利用相談（窓口）」409件、「その他」231件。これまでは「活動相談」よりも「窓口利用相談」が多かったが、令和4年度は逆転した。（集計一覧：資料12-1参照）

相談種別	R3年度		R4年度		前年度比
	件数	構成比	件数	構成比	
活動相談	305件	36%	437件	41%	143%
窓口利用相談	345件	41%	409件	38%	119%
その他	195件	23%	231件	21%	118%
相談全体	845件		1,077件		127%

令和4年度は「活動相談」「窓口利用相談」「その他」ですべて増加した。

「活動相談」が増加した要因としては、相談機能の周知と伴走相談の増加が考えられる。イベント・講座の開催時や、市民活動の現場を訪問する際に相談機能を紹介したチラシを配布したことで、サポートセンターで活動に関する幅広い相談を受け付けていることを周知できた。また伴走相談については、令和3年度の16件から43件に増加。活動の段階に応じた相談対応を継続することができた。



「窓口利用相談」が増加した要因としては、新型コロナウイルス感染拡大対策のある生活が定着し、活動へのハードルが下がったことが考えられる。利用者からは「新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着いてきたので久しぶりに活動を再開します」といった声も聴かれた。

「その他」の相談が増えた要因としては、令和3年度から、これまでサポートセンターの事業に参加した人や活動相談に来た人の変化を積極的に聞き取りした結果、何かあったときにサポートセンターに連絡する関係性を築くことができたことが考えられる。

○新型コロナウイルス感染拡大について

「活動相談」の中で「新型コロナウイルス感染拡大」に関連した相談は18件と活動相談全体の4%にとどまった。令和3年度の43件から件数、割合共に大幅に減少した。具体的な内容としては、新型コロナウイルス感染拡大によって活動をする場や活動の成果を発表する場がないという相談をはじめ、コロナ禍でも活動ができる方法を模索している等の相談があった。

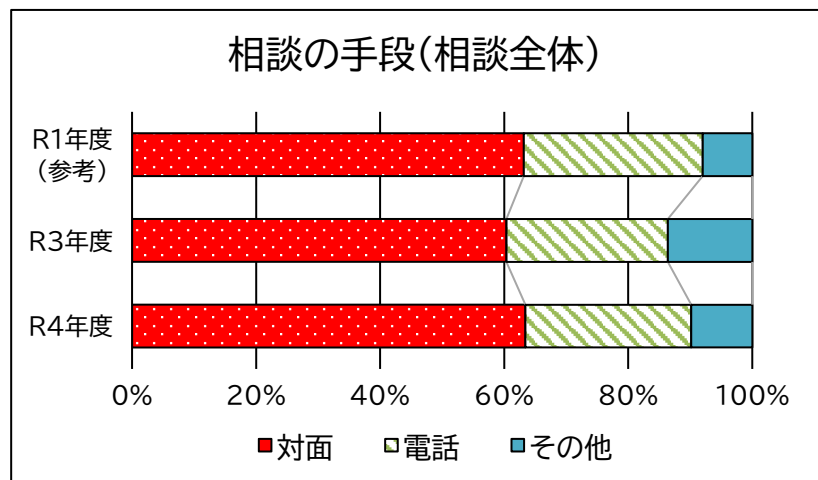
「その他」として活動の現状のヒアリングや情報共有する中で、新型コロナウイルス感染拡大に関連する話題が出たのは24件で、令和3年度の19件からわずかに増加した。「新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着き、活動を再開する目途が立った」という団体がある一方で「目途が立たず活動の終了を決めた」という報告もあった。他にも、「コロナ禍以前と変わらずに活動をしていたが、参加者の構成が変化し、それに合わせて活動を見直した」という声もあ

た。

② 相談の手段

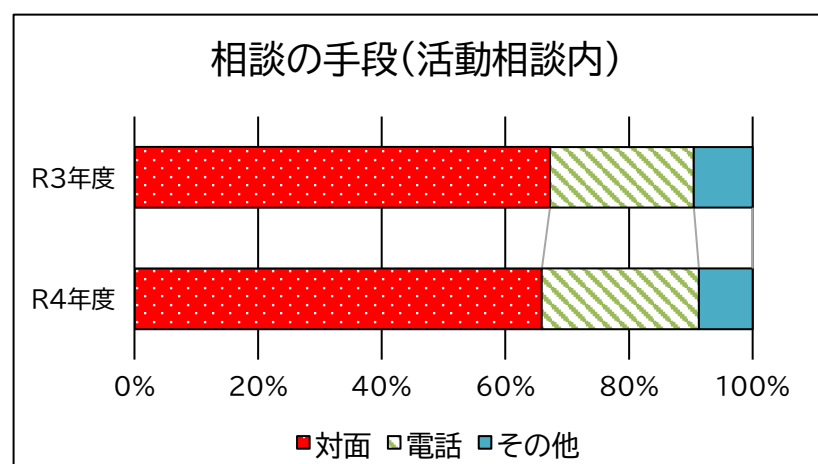
「対面」での相談は683件(令和3年度510件、前年度比131%)、「電話」での相談は288件(令和3年度220件、前年度比134%)、お問い合わせフォームやオンラインでの相談、メールなどでのスタッフによる情報収集・ヒアリングなどの「その他」が106件(令和3年度115件、前年度比92%)であった。「対面」と「電話」はそれぞれ増加した一方で、「その他」の相談はわずかに減少した。新型コロナウイルス感染拡大前の令和元年度に近い構成比になりつつある。

相談手段	R3年度		R4年度		前年度比
	件数	構成比	件数	構成比	
対面	510件	60%	683件	63%	131%
電話	220件	26%	288件	27%	134%
その他	115件	14%	106件	10%	92%
全体	845件		1077件		127%



「活動相談」に限って相談の手段を見てみると、全体では「その他」の相談手段がわずかに減少した一方、「活動相談」内では増加傾向が見られた。「活動相談」は、事前に日程調整することが多く、継続的に対応している相談もあるため、オンライン会議ツールやメールといった対面にこだわらない相談方法も選択される傾向があると考えられる。

活動相談の 相談手段	R3年度		R4年度		前年度比
	件数	構成比	件数	構成比	
対面	205件	67%	288件	66%	140%
電話	71件	23%	111件	25%	156%
その他	29件	10%	38件	9%	131%
全体	305件		437件		143%

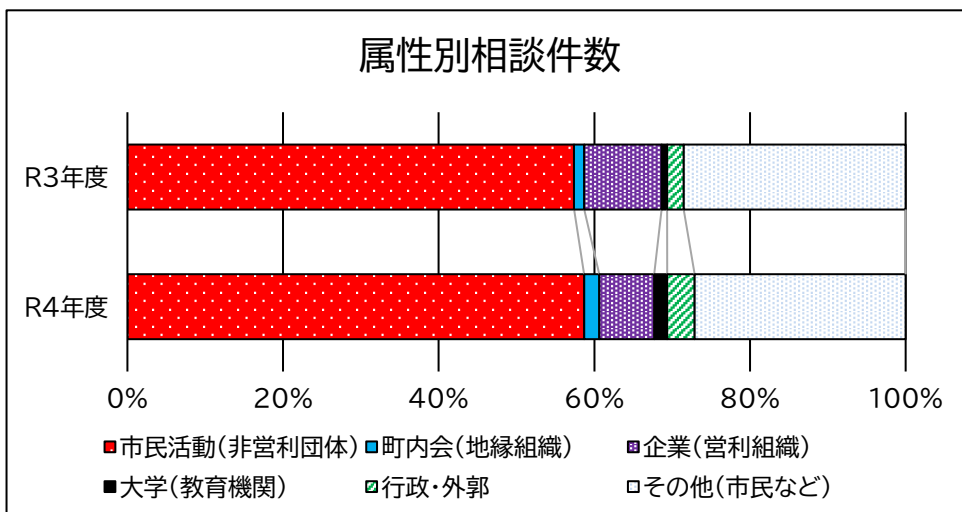


③ 相談全体における相談者の属性

「市民活動(非営利団体)」が632件(前年度比130%)、「町内会(地縁組織)」が21件(前年度比 190%)、「大学(教育機関)」が18件(前年度比300%)、「行政・外郭」が38件(前年度比211%)、「その他(市民など)」が292件(前年度比121%)と増加したが、一方で「企業(営利組織)」は76件(前年度比89%)とわずかに減少した。「市民活動(非営利団体)」からの相談が最多であり、全体の約6割を占めた。

相談者の具体的な属性の中で最多だったのは法人格を持たない「任意団体」が423件、次いで多かったのは「市民」で238件だった。

属性別相談件数	R3年度		R4年度		前年度比
	件数	構成比	件数	構成比	
市民活動(非営利団体)	485件	57%	632件	59%	130%
町内会(地縁組織)	11件	1%	21件	2%	190%
企業(営利組織)	84件	10%	76件	7%	89%
大学(教育機関)	6件	1%	18件	2%	300%
行政・外郭	18件	2%	38件	4%	211%
その他(市民など)	241件	29%	292件	27%	121%
全体	845件		1077件		127%



④ 活動相談における属性別相談件数

令和3年度と比較してすべての属性の相談件数が増加した。「企業(営利組織)」は相談全体の中では唯一、相談件数が減少していたものの、「活動相談」内では、『ぱれっと』の取材や「せんだい・みやぎソーシャルハブ情報交換会」などの事業への参加がきっかけとなった相談に継続して対応したことから相談件数が増加した。

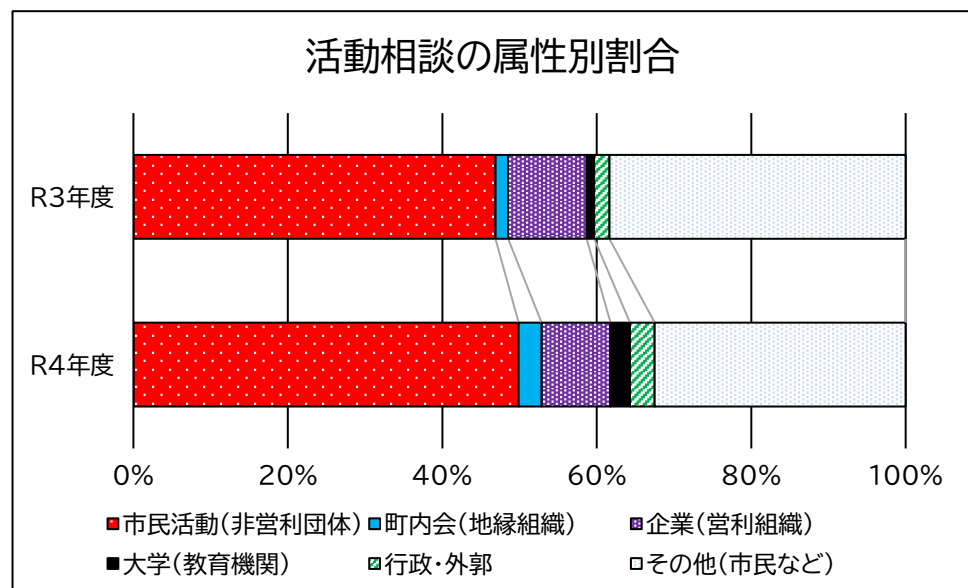
「町内会(地縁組織)」「大学(教育機関)」「行政・外郭」の3つの属性は令和3年度と比較して2～3倍、件数が増加した。

「町内会(地縁組織)」からの相談が増えた要因としては仙台市が実施している「地域づくりパートナープロジェクト推進助成」への応募を考え、事前相談にて対応した件数が令和3年度よりも増えたことがあげられる。

「大学(教育機関)」では、大学からの学生インターンシップの相談や、ブログ掲載の情報を研究の一環で高齢者へ情報提供したいという相談、高校からの総合的な探究の時間に関係した相談など。

「行政・外郭」からの相談は、仙台市の高齢企画課、家庭ごみ減量課、都心まちづくり課、榴岡図書館、青葉区中央市民センター、全国都市緑化フェア推進室からの相談で、情報収集や広報協力など。広報媒体の作成相談や、全国都市緑化フェアのボランティア募集の協力依頼など。

活動相談における 属性別相談件数	R3年度		R4年度		前年度比
	件数	構成比	件数	構成比	
市民活動(非営利団体)	143件	47%	218件	50%	152%
町内会(地縁組織)	5件	2%	13件	3%	260%
企業(営利組織)	31件	10%	39件	9%	126%
大学(教育機関)	3件	1%	11件	3%	367%
行政・外郭	6件	2%	14件	3%	233%
その他(市民など)	117件	38%	142件	32%	121%
全体	305件		437件		127%



⑤ 相談主訴

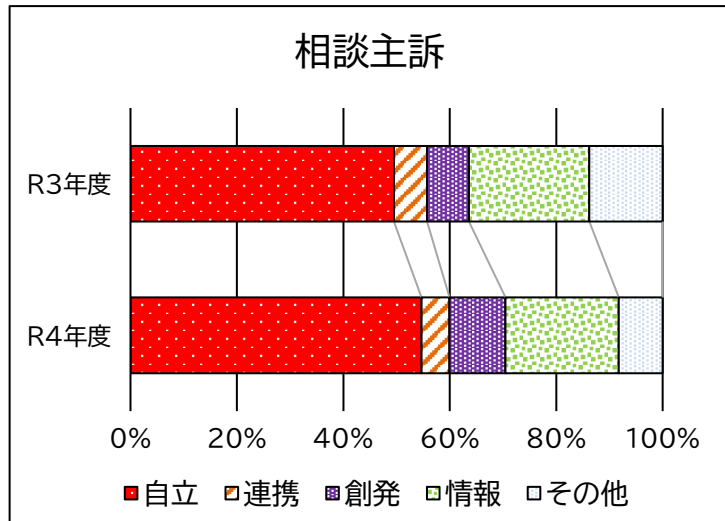
「活動相談」では、相談の主訴を平成28年策定の「協働によるまちづくりの推進のための基本方針」であげられた「自立」「連携」「創発」の3つに「情報」「その他」を加えた5つに分類・集計している。

「自立」は活動の立ち上げに向けた想いの整理や、組織の運営についての相談。「連携」は多様な主体との協働についての相談。「創発」は政策の提言や制度の利用についての相談。「情報」は制度や活動などの情報収集。「その他」は何かしらの課題を抱えた当事者からの相談やサポートセンターへの視察、またここまであげたものに当てはまらないものを分類する際に使われる。

「自立」段階の相談は239件と令和3年度の151件と比較して158%増加した。サポートセンターに寄せられた「活動相談」の55%が「自立」段階の相談だった。この「自立」の段階においては「課題解決に取り組もうとする段階」の相談が17件と令和3年度の42件から減少した。その一方で「組織運営基盤(事務局運営・税務・労務・会計・資金・人材・労務等)に関する相談」は89件と令和3年度の9件から大きく増加した。組織運営で課題を抱える団体の増加が考えられる(資料一覧:資料12-2参照)

「創発」の段階の相談は、令和3年度の24件から約2倍の46件に増加した。「創発」段階の相談としては仙台市が実施している「市民協働事業提案制度」や「地域づくりパートナープロジェクト推進助成」の事前相談が主になっている。これらの制度に応募を考える団体が増えたことが件数の増加につながった。

主訴	R3年度		R4年度		前年度比
	件数	構成比	件数	構成比	
自立	151件	50%	239件	55%	158%
連携	19件	6%	23件	5%	121%
創発	24件	8%	46件	11%	192%
情報	69件	23%	93件	21%	135%
その他	42件	14%	36件	8%	86%
全体	305件		437件		143%



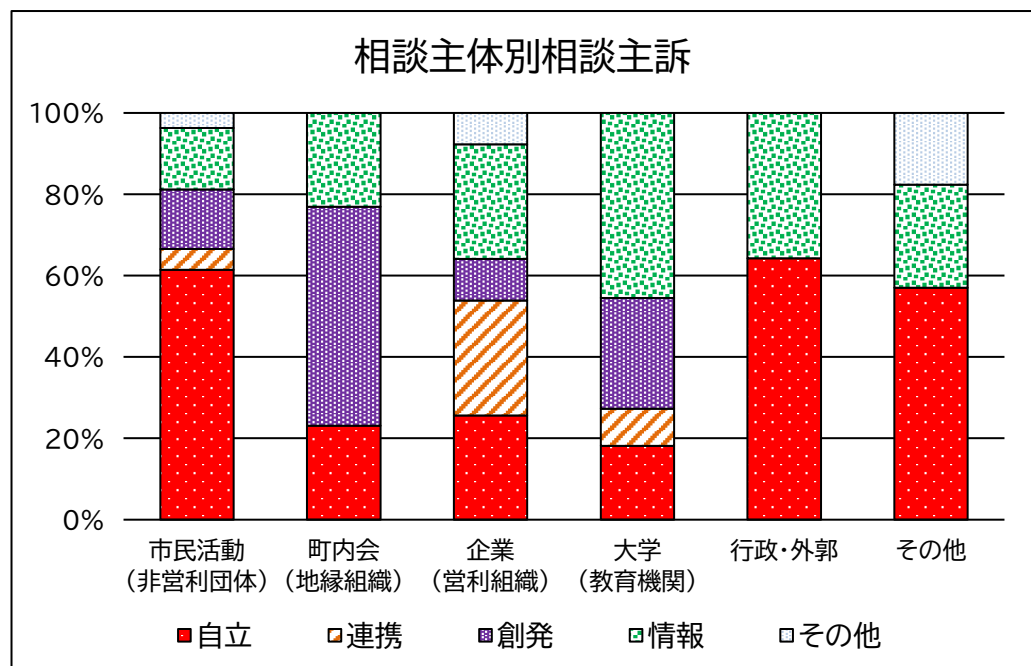
⑥ 相談主体別—相談主訴

相談主体別に相談主訴を見ていくと、市民活動団体(非営利団体)では「自立」の段階の相談が最多となった。その中では「課題解決に取り組もうとする段階」として思いの整理に関する相談が減少した一方で、「組織運営基盤(事務局運営・税務・労務・会計・資金・人材・労務等)に関する相談」が増加した。任意団体からの会員や参加者を増やしたいという相談から、組織の法人化について、NPO 法人からのインボイス制度についての相談や、資金調達の相談など、組織運営に関わる多様な相談が寄せられた。

「企業(営利組織)」では「連携」と「情報」の相談が多かった。「連携」は企業が持つノウハウを活かした市民活動団体との連携による社会貢献活動に関する相談、「情報」は新聞社など報道機関等による市民活動団体の活動に関する情報収集などだった。

「その他・市民」では「自立」と「情報」に関する相談が多い。「自立」は、まだ組織化していない個人からの活動の立ち上げ相談や活動に参加したいという相談。「情報」は、自分自身の身の回りの困りごとを解決してくれる機関や市民活動団体についての情報収集であった。

属性別 主訴	市民 活動	町内会	企業	大学	行政・ 外郭	その他	合計
自立	134件	3件	10件	2件	9件	81件	239件
連携	11件	0件	11件	1件	0件	0件	23件
創発	32件	7件	4件	3件	0件	0件	46件
情報	33件	3件	11件	5件	5件	36件	93件
その他	8件	0件	3件	0件	0件	25件	36件
合計	218件	13件	39件	11件	14件	142件	437件



⑦ 相談主体別一相談内容(複数選択あり)

活動相談の内容・相談者について複数選択による集計結果を見ると「自立」の段階の相談が405件(令和3年度261件)と令和3年度に引き続き最多であった。「連携」は108件(令和3年度74件)、「創発」は61件(令和3年度36件)、「情報」は235件(令和3年度149件)、「その他」は59件(令和3年度64件)であり、「その他」を除いてほとんどが令和3年度より増加した。(資料一覧:資料12-3参照)

令和4年度対応した相談についてそれぞれの属性の相談傾向は以下の通り。

(ア) 市民活動団体(非営利団体)

【任意団体】

広報や資金など運営基盤に関する相談が多かった。具体的な相談内容は以下の通り。

- 資金調達(活動資金や助成金など)…22件
- 広報(チラシの作り方や広報戦略など)…18件
- 人材(メンバーやボランティア集めなど)…4件

仙台市が実施する「地域づくりパートナープロジェクト推進助成」や「市民協働事業提案制度」の事前相談以外での連携・協働に関する相談には12件対応した。主な内容は、協働先の選定や進め方についてであった。

法人設立の相談は18件対応。内訳はNPO法人設立が8件、一般社団法人設立が5件、組織形態は未定が5件。

【NPO法人】

任意団体と同様に運営基盤に関する相談が多かった。具体的な相談内容は以下の通り。

- 資金調達(活動資金や助成金など)…7件
- 広報(チラシの作り方や広報戦略など)…4件
- 人材(メンバーやボランティア集めなど)…2件

「地域づくりパートナープロジェクト推進助成」や「市民協働事業提案制度」の事前相談以外での連携・協働に関する相談には3件対応した。

他に、NPO法人が運営している他地域の市民活動支援施設からの相談にも対応した。

【一般社団法人】

「地域づくりパートナープロジェクト推進助成」や「市民協働事業提案制度」に関する相談や、制度以外での「連携」に関する相談が多かった。運営基盤に関する相談については以下の通り。

- 資金調達(活動資金や助成金など)…3件
- 広報(チラシの作り方や広報戦略など)…2件
- 人材(メンバーやボランティア集めなど)…1件

【その他法人】

内訳は公益社団法人から3件、社会福祉法人からは1件。公益社団法人からは広報に関する相談が2件、活動の現状に関する相談に1件対応。社会福祉法人では地区社会福祉協議会より市民活動団体の運営に関する相談が寄せられた。

「市民活動団体(非営利団体)」全体で見ると、「資金調達」と「広報」に関する相談はそれぞれ29件と高かった。また「連携」に関する相談も27件あった。

(イ) 町内会(地縁組織)

「地域づくりパートナープロジェクト推進助成」の事前相談にて、地域課題を市民活動団体と連携して解決を目指すための相談が多くを占めた。次いで多かったのは、町内会単体での課題解決に取り組もうとする相談であった。

町内会として地域課題に取り組むのではなく新たに市民活動団体を立ち上げ、地域課題の解決に取り組みたいといった相談もあった。

(ウ) 企業(営利組織)

寄付先についての情報収集や市民活動団体との連携、社会貢献活動の進め方などの相談があった。

また報道機関の取材等を目的とした市民活動の情報収集にも対応した。

(エ) 大学(教育機関)

大学からの学生インターンシップの相談や、ブログ掲載の情報を研究の一環で高齢者へ情報提供したいという相談、高校からの総合的な探究の時間に関係した相談など。

(オ) 行政・外郭

社会課題について取り組む市民活動団体についての情報収集など。他に、広報媒体の作成相談や仙台市が行うイベントのボランティアの集め方についての相談にも対応した。

(カ) その他・市民

社会貢献をしたいと考える市民からの立ち上げや参加に関する相談が多かった。市民活動団体の立ち上げ相談が45件、市民活動への参加についての相談32件など。

この他にも個人が抱える課題を相談できる機関や市民活動団体についての情報収集、障害や貧困など様々な事情を持つ当事者からの相談など幅広い相談に対応した。

⑧ その他

仙台市市民協働推進課の「地域づくりパートナープロジェクト推進助成」と「市民協働事業提案制度」の事前相談に対応した。

○「地域づくりパートナープロジェクト推進助成」事前相談

令和4年度実施事業の事前相談(令和4年3月～4月) 9件

令和5年度実施事業の事前相談(令和4年11月～12月) 18件

○「市民協働事業提案制度」事前相談

令和5年度実施事業の事前相談(令和4年8月～9月) 17件

平成28年度から、せんだい創業支援ネットワークの構成団体として、公益財団法人仙台市産業振興事業団が運営する仙台市企業支援センター「アシ☆スタ」と連携し、「起業・創業なんでも相談DAY」に出張相談員として参画している。令和4年度は年間を通し、3件の相談に対応した。

5. 交流・連携・その他

5-1. 外部組織との連携

他組織とサポートセンターの連携を深め、効果的な管理・運営を行うため、下記のネットワーク会議などへ参加や、イベント運営協力を実施した。

連携先	日程	内容
会議・事業連携等		
杜の都の市民環境教育・学習推進会議(FEEL Sendai)	4月25日(月)	定例会(1名)
仙台市社会福祉協議会	6月21日(火)	評議会(1名)
	11月29日(火)	評議会(1名)
仙台市ボランティアセンター	6月23日(木)	「ボランティア・市民活動ネットワーク会議」(1名)
イベント参加		
柳生市民センター	5月13日(金)	「みんなでポッチャ」(1名)
仙台市ボランティアセンター	5月19日(木)	災害ボランティアセンター情報交換(1名)
みやぎ NPO プラザ	7月9日(土)	「宮城県内 NPO・市民活動支援施設情報交換会」(2名)
	12月11日(日)	みやぎ NPO フォーラム参加(1名)
仙台市まちづくり政策局	11月6日(日)	「みんなのまちづくりフォーラム」(1名)
多賀城市市民活動サポートセンター	12月4日(日)	クリスマス雑貨市(1名)
その他		
みやぎ NPO プラザ	7月9日(土)	ヒアリング対応(1名)
仙台市	9月8日(木)	仙台市産業振興事業団訪問(1名)
	9月30日(金)	仙台市環境局家庭ごみ減量課とフードボックスについて打ち合わせ(1名)
	10月28日(月)～3月31日(金)	仙台市環境局家庭ごみ減量課フードボックス設置(館内1階)
宮城野区中央市民センター	9月13日(火)	ICT 活用に関するヒアリング対応(1名)
大崎市市民活動サポートセンター	11月5日(土)	ヒアリング対応(2名)
NPO 法人杜の伝言板ゆるる	12月8日(木)	「ゆるると NPO ! オン・タイム・トーク」収録(1名)

5-2. 会議・研修

(1) 会議

サポートセンターの管理・運営を円滑に、かつ効果的に行うため、下記のように各種会議(打ち合わせ)を開催した。

○仙台市と指定管理者との定例打ち合わせ

開催頻度: 1 回 / 月

所要時間: 約 2 時間 / 回

内容: 管理運営状況の報告・連絡・相談や懸案事項の協議

○施設運営会議

開催頻度: 2 回 / 月

所要時間: 約 2 時間 / 回

構成メンバー: センター長、副センター長、および各主任

内容: 各事業の進捗管理とサポートセンター運営に関する課題や懸案事項に関する協議

○ケースミーティング・全体ミーティング

開催頻度: 2 回 / 月 (休館日活用)

所要時間: 1 時間 / 回

内容: 相談業務および施設運営管理についての共有や研修

○チームミーティング、部門会議、各事業ミーティング

随時開催

(2) 研修

内部研修として中間支援組織に在職する職員ならば知識として知っておくべき対人援助業務に関するもの、協働、市民活動シアターの施設設備についてなどのさまざまな研修を行った。

また、外部研修では、中間支援組織の新人および職員対象者への全国規模の研修の他、下記の各研修に参加した。

内部研修	日程	人数
ロッカー使用料収納業務	7 月 27 日 (水)	全職員対象
車いすの操作方法	8 月 24 日 (水)	全職員対象
仙台市消防局「救命救急 e ラーニング」	9 月 14 日 (水)	全職員対象
東北環境パートナーシップオフィス 『『環境』に関する基本のキに立ち返る』	9 月 28 日 (水)	全職員対象
仙台市消防局「救命救急講習」	10 月 12 日 (水)	全職員対象
相談対応ロールプレイ研修	10 月 26 日 (水)	全職員対象

外部研修	日程	人数
大崎市市民活動サポートセンター「Zoom 初心者講座」	4月27日(水)	1名
日本非営利組織評価センター JCNE 助成金活用セミナー 「徹底解説！助成金の見つけ方」	5月12日(木)	1名
みやぎ NPO プラザ「NPO・市民活動団体のための会計初級講座」	5月26日(木)	1名
みやぎ NPO プラザ「行政職員のための NPO 理解講座」	6月2日(木)	1名
みやぎ NPO プラザ「NPO のための動画制作講座」	6月23日(木)	1名
仙台市生涯学習支援センター 「いっしょに SDGs:SDGs と市民活動」	7月2日(土)	1名
日本非営利組織評価センターJCNE 助成金活用セミナー 「対象事業の種類を分解する！」	7月7日(木)	1名
仙台市生涯学習支援センター 「いっしょに SDGs:聖火の燃料は生ごみ？」	7月16日(土)	1名
仙台市生涯学習支援センター 「いっしょに SDGs:食糧支援と生活相談」	7月30日(土)	1名
日本 NPO センター「NPO 支援センター初任者研修会」	8月3日(水) 8月25日(木)	1名
日本 NPO センター「組織基盤強化サポート研修」	8月22日(月)	1名
blastmail「初心者のためのメルマガ配信基本講座」	9月6日(火)	1名
blastmail「メルマガのノウハウ 100 選」	9月15日(木)	1名
宮城県社会福祉協議会「ボランティアコーディネーター研修」	10月5日(水)	1名
生涯学習支援センター「地域づくりのためのコピーライティング」	11月2日(水) 11月9日(水) 11月16日(水)	1名
みやぎ NPO プラザ令和 4 年度 NPO 支援センター研修 「相談対応に大切な『質問力』を磨く」	11月10日(木)	1名
「市民の参加と協働を進めるコーディネーション研究集会」	12月17日(日) 12月18日(月)	3名
現代的課題対応研修会「生涯学習における ICT 活用」	2月2日(木)	1名
効果的な発信方法の選び方セミナー	2月11日(土)	1名
ボランティア・マネジメント講座	2月12日(日)	1名
ボランティア・コーディネート講座	2月16日(木)	2名
みやぎ NPO プラザ令和 4 年度 NPO 支援センター研修 強くあたたかい組織(チーム)・コミュニティのつくり方	3月2日(木) 3月3日(金)	1名

5-3. 視察・見学対応

令和 4 年度の視察・見学による来訪者の件数は 55 件、人数は 154 人だった。令和3年度(21 件、39 人)に対して件数は約 2 倍強、人数は約 4 倍に増加した。

来訪者属性は、その他(学生・議員・公益法人)が 29 件で最も多く、令和3年度、マスコミ取材が 1 件に対し、令和 4 年度は 8 件など、全体的に 2 倍以上増加した。

企業関係者はサポートセンターの機能や各種サービスの情報収集に来館された。窓口対応でヒアリングした内容から、企業として社会貢献の関わり方を模索していることが伺えた。

その他(学生)の来訪の目的は当センター建物の構造に関する興味関心が最も多く、他県からの見学者が目立った。また、マスコミ取材に関しては、市民活動団体のコロナ禍における活動を取り上げる取材が大半を占めた。これらは、新型コロナウイルス感染拡大の影響も落ち着き始め、日常生活や経済社会活動を継続できるよう行動制限の緩和を受けた政府の取組みが結果として現れ始めたのではないかと考えられる。

(集計一覧:資料 13「視察・見学対応」参照)

来訪者属性(件数)	R3 年度	R4 年度
市民活動団体	3	8
行政関係者	1	5
企業関係者	3	5
その他(学生・議員・公益法人)	13	29
マスコミ取材	1	8
合計件数	21	55

来訪者月別集計		
月	件数	人数
4 月	6	19
5 月	8	23
6 月	9	18
7 月	3	11
8 月	1	3
9 月	5	9
10 月	5	13
11 月	3	8
12 月	4	27
1 月	2	5
2 月	4	4
3 月	5	14
合計	55	154
R3 年度	21	39

5-4. 防災避難訓練

消防法に基づく防災避難訓練を実施した。

日程	実施時間	参加	不参加	訓練種別
令和4年10月12日(水)	15:00~16:30	20人	3人	消火訓練/通報訓練
令和5年3月8日(水)		17人	6人	避難訓練 設備操作訓練

訓練の目的

〔不特定多数が利用する施設としての火災・地震発災時の避難誘導の手順を共有する〕

- 施設利用者へのパニック防止を目的とした情報提供の実施確認(館内放送)
- 館内災害対応設備及び感染予防備品の確認(施設設備・災害対応備品)

訓練の内容

- 防災設備・備品の種類、設置場所、使用方法の確認
- 想定災害による避難誘導訓練(消防訓練カード使用)
- 訓練通報
- 救急救命講習の実施(事前 e ラーニング含む)

消防計画に定めた年2回の消防訓練は、令和4年10月12日(水)及び令和5年3月8日(水)に「防災設備・備品の種類、設置場所、使用方法の確認」「避難誘導訓練」を主な内容として行った。「避難誘導訓練」は両日とも火災を想定しての訓練とした。

今回は、利用者役・スタッフ役に分かれてのシミュレーションではなく、「消防訓練カード」を使用しての避難誘導訓練とした。火災が発生した想定でスタッフが避難誘導行動を行い、その際館内各所に設置してあるカードに書かれた出来事(例:床に倒れた利用者がある。意識なし)について対応を考えて行動し、終了後にそれぞれとった対応について発表、意見交換・行動の共有を行った。

このほか令和4年10月12日(水)の実施では仙台市青葉消防署員を講師に招いて救命教習を、令和5年3月8日(水)の実施では消防署への模擬通報訓練を行った。

いずれの回においても、中央監視システムの見方、館内放送、消火栓および消火器の設置状況及び操作方法などについて改めて確認した。訓練後の意見交換ではそれぞれの対応や行動の良かった点・改善が必要な点をスタッフ間で共有し、次回実施時に反映させていくこととしている。

5-5 施設の維持管理

令和3年度には大規模工事・修繕はなかったが、いくつか補修工事を行った。

■雨漏り補修工事

6階・5階広瀬通側窓枠から雨漏りが発生。当初、7Fのルーフドレンが詰まったことによるものと思われ、窓清掃と同時に詰まりを取り除く作業をしてもらったが雨漏りは解消しなかった。業者の調査によっても原因特定には至らなかったが、おそらく度重なる地震で壁面内のドレン管に亀裂が入るなどしたのではないかと予想された。既設のドレン管内に新たなパイプを通し、ルーフの防水シート貼り換えなども行い、おさまった。

■令和4年3月の地震被害補修

令和4年3月16日(水)に発生した地震の影響とみられる、外壁タイルの浮き、玄関タイルの浮き・割れ、ドアや窓の開閉しにくさなどの補修を実施し、解消した。

■貸室壁面のクロス張替え、カーテン交換

貸室内の壁面で、特に角や足元の部分など、汚れや損傷が見られたため、クロスの貼り換えを行った。使用しているうちに自然と生じる傷みであるので、今後も経過を見ながら必要な修繕を行っていきたい。また、交流サロンとセミナーホールのカーテンも日焼けと汚れが目立ってきたため新調した。

■市民活動シアター 携帯アンテナ工事

地下1階市民活動シアターでは、auのアンテナ工事が入り、3大携帯キャリア全て通話可能になった。Wi-Fiが利用できることから、オンライン通話が可能であった点、特に若い世代では音声通話よりメッセージアプリでの連絡が主流である点はあるものの、利便性が増したことは間違いない。

■ロッカーのテンキー不具合

館内設置のロッカーでは、電池交換をしてもテンキーロックの開閉に不具合のあるロッカーが数台あり、マスターキーでの対応をしている。業者による現地調査では、平成30年2月に追加設置したものを除き、経年劣化による不具合とみられ、年数が経っていることから修理や部品交換はできないとのことだった。1台は扉ごと交換し、従来のテンキー式からダイヤル式に変更することで貸し出しを再開できた。ある程度まとまった数もしくは一気にダイヤル式への変更、新品への入れ替えを行うことも視野に入れ、今後の経過を見ていく。

6. 事業報告

事業 1	情報収集提供事業	P51
事業 2	相談事業	P55
事業 3	人材育成事業	P61
事業 4	協働に関する理解促進及び機会創出事業	P69
事業 5	調査研究事業	P73

個別事業報告書

【事業 1】情報収集提供事業	
事業目的	1. 多彩な市民活動や、市民が気づいた地域の課題、協働による課題解決の取り組みなどについて、活発に情報受発信される環境を整える。 2. 市民活動と協働について広く市民へ伝える。 3. 市民目線での情報発信を活性化する。
成果目標	・市民が団体情報や活動に有益な情報に触れる機会を増やす。 ・まちづくりに関心を持ち、取り組む人材を増やす。
実施目標	・ブログの訪問者数(ユニークユーザー)年間 40,000 件以上 ・ブログ投稿数 250 件以上 ・事業者の社会貢献活動の紹介 年間 5 件以上
成果	1.市民活動、協働等に関する情報の収集提供業務全般 (1)市民活動、協働等に関する情報の収集および提供 ① マチノワひろば 展示数:13 企画 内、サポートセンター主催による自己使用 4 企画 (令和 3 年度 3 企画 内、自己使用 1 企画) ② マチノワギャラリー 展示数:12 企画 内、サポートセンター主催による自己使用 1 企画 (令和 3 年度 10 企画 内、自己使用 1 企画) 2.機関誌『ばれっと』の発行 P28～「3-5. 情報発信」参照 3.市民ライターの育成 (1)ワークショップ「ローカルメディアコンパスを、ちょっと体験」 ① 市民ライター交流会 ・1 回実施し、市民ライター講座受講者 3 名が参加。 ・市民ライター講座修了後、それぞれが市民ライターとして活躍する中で、実は同じように悩んでいたことを共有でき、相談し合える場になった。 ・市民ライターとサポートセンターとの関係づくりや、市民ライター課外活動参加へのきっかけになった。 ② 地域メディア談話室 ・3 回実施し、地域の情報発信に興味がある人等、計 33 名参加。 ・アンケートによる満足度の平均は 5 満点中 4.4 点と高評価を得られた。 ・「あなたが地域の魅力や課題を発信する際、参考にしたいことはありましたか？」という質問に対して「大いにあった」の回答が半数以上(添付資料「地域メディア談話室 参加者アンケート集計結果」参照)。 ・参加者が互いの活動に関心を持ち、取材に行ったり、イベントに参加したりするなど関わるきっかけになった。 ③ 地域メディア妄想編集会議 ・1 回実施し、地域の情報発信活動に関心のある人等 12 名が参加。 ・アンケートによる満足度は、半数以上の人が「満足」と評価。 ・「地域で何かしたい」という思いを持った市民活動潜在層や活動者層が集まり、新たな顧客獲得につながった。

	(2)市民ライター課外活動 ・4名の市民ライター(過去市民ライター養成講座受講者)が、「いづいっちゃんねる」視聴レポートや、「青葉通仙台駅前エリア社会実験」の現場を取材した記事を執筆。サポートセンターブログで公開した。(令和3年度執筆2名)																																										
課題	・市民ライターの育成では、すでに活動をしている人同士が情報交換したり、関わり合ったりするきっかけにつながったが、地域の情報発信に興味を持ちながらまだ活動に至れていない潜在層へはアプローチしきれていない。 ・サポートセンター開設以来アーカイブし続けている市民活動団体の活動情報(過去のイベントチラシ)を、必要とする人が活用できる仕組み作りが不十分。																																										
実施概要	1.市民活動、協働等に関する情報の収集提供業務全般 (1)市民活動、協働等に関する情報の収集および提供 ① マチノワひろば <table><tr><th>期間</th><th>企画</th><th>設置者・主催者</th></tr><tr><td>令和4年 4月4日(月) ～25日(月)</td><td>三神峯”桜”お誘い展 in サポセン</td><td>西多賀まちづくり 推進委員会</td></tr><tr><td>5月1日(日) ～31日(火)</td><td>気になる地図展</td><td>サポートセンター</td></tr><tr><td>6月1日(水) ～27日(月)</td><td>気になる、非常用トイレ展</td><td>サポートセンター</td></tr><tr><td>6月28日(火) ～7月31日(日)</td><td>大きなにじいろのゾウ ～八木山動物園のメアリーを 藤崎百貨店で作りました。</td><td>一般社団法人 アート・インクルージョン</td></tr><tr><td>8月1日(月) ～31日(水)</td><td>生きる力を応援するアート/ WONDER ART 展</td><td>NPO 法人 ワンダーアート</td></tr><tr><td>9月2日(金) ～30日(金)</td><td>気になる「食いしん坊」展</td><td>サポートセンター</td></tr><tr><td>10月4日(火) ～31日(月)</td><td>いづいっちゃんねる PR 展</td><td>サポートセンター</td></tr><tr><td>11月1日(火) ～29日(火)</td><td>第83回 広瀬川写真展 広瀬川の山から海まで</td><td>広瀬川の水質と景観を 守る会</td></tr><tr><td>12月1日(木) ～27日(火)</td><td>宮城野原案内人の会の一年街 歩き</td><td>宮城野原案内人の会</td></tr><tr><td>令和5年 1月7日(土) ～29日(日)</td><td>イノシシわらアート</td><td>一般社団法人 ReRoots</td></tr><tr><td>1月30日(月) ～2月15日(水)</td><td>気になる報告書展</td><td>サポートセンター</td></tr><tr><td>2月15日(水) ～3月14日(火)</td><td>3.11 キャンドルナイト</td><td>3.11 キャンドルナイト 実行委員会</td></tr><tr><td>3月15日(水) ～30日(木)</td><td>「ぱれっと」より、行ってみたく なるまち集めました！！</td><td>サポートセンター</td></tr></table>	期間	企画	設置者・主催者	令和4年 4月4日(月) ～25日(月)	三神峯”桜”お誘い展 in サポセン	西多賀まちづくり 推進委員会	5月1日(日) ～31日(火)	気になる地図展	サポートセンター	6月1日(水) ～27日(月)	気になる、非常用トイレ展	サポートセンター	6月28日(火) ～7月31日(日)	大きなにじいろのゾウ ～八木山動物園のメアリーを 藤崎百貨店で作りました。	一般社団法人 アート・インクルージョン	8月1日(月) ～31日(水)	生きる力を応援するアート/ WONDER ART 展	NPO 法人 ワンダーアート	9月2日(金) ～30日(金)	気になる「食いしん坊」展	サポートセンター	10月4日(火) ～31日(月)	いづいっちゃんねる PR 展	サポートセンター	11月1日(火) ～29日(火)	第83回 広瀬川写真展 広瀬川の山から海まで	広瀬川の水質と景観を 守る会	12月1日(木) ～27日(火)	宮城野原案内人の会の一年街 歩き	宮城野原案内人の会	令和5年 1月7日(土) ～29日(日)	イノシシわらアート	一般社団法人 ReRoots	1月30日(月) ～2月15日(水)	気になる報告書展	サポートセンター	2月15日(水) ～3月14日(火)	3.11 キャンドルナイト	3.11 キャンドルナイト 実行委員会	3月15日(水) ～30日(木)	「ぱれっと」より、行ってみたく なるまち集めました！！	サポートセンター
期間	企画	設置者・主催者																																									
令和4年 4月4日(月) ～25日(月)	三神峯”桜”お誘い展 in サポセン	西多賀まちづくり 推進委員会																																									
5月1日(日) ～31日(火)	気になる地図展	サポートセンター																																									
6月1日(水) ～27日(月)	気になる、非常用トイレ展	サポートセンター																																									
6月28日(火) ～7月31日(日)	大きなにじいろのゾウ ～八木山動物園のメアリーを 藤崎百貨店で作りました。	一般社団法人 アート・インクルージョン																																									
8月1日(月) ～31日(水)	生きる力を応援するアート/ WONDER ART 展	NPO 法人 ワンダーアート																																									
9月2日(金) ～30日(金)	気になる「食いしん坊」展	サポートセンター																																									
10月4日(火) ～31日(月)	いづいっちゃんねる PR 展	サポートセンター																																									
11月1日(火) ～29日(火)	第83回 広瀬川写真展 広瀬川の山から海まで	広瀬川の水質と景観を 守る会																																									
12月1日(木) ～27日(火)	宮城野原案内人の会の一年街 歩き	宮城野原案内人の会																																									
令和5年 1月7日(土) ～29日(日)	イノシシわらアート	一般社団法人 ReRoots																																									
1月30日(月) ～2月15日(水)	気になる報告書展	サポートセンター																																									
2月15日(水) ～3月14日(火)	3.11 キャンドルナイト	3.11 キャンドルナイト 実行委員会																																									
3月15日(水) ～30日(木)	「ぱれっと」より、行ってみたく なるまち集めました！！	サポートセンター																																									

②マチノワギャラリー

期間	企画	設置者・主催者
令和 4 年 4 月 4 日(月) ～30 日(土)	三神峯”桜”お誘い展 in サポセン	西多賀まちづくり 推進委員会
5 月 1 日(日) ～31 日(火)	仙石線消えた踏切を辿る 「名板設置写真展」	宮城野原案内人の会
6 月 16 日(木) ～29 日(水)	笑顔でつなぐ SDGs セタ飾りプロジェクト ～みんなの笑顔大募集～	障がい者サポーターズ Golazo!
7 月 4 日(月) ～30 日(土)	化学物質過敏症って何?	みやぎ化学物質過敏症 の会～ぴゅあい～
8 月 1 日(月) ～31 日(水)	仙台自主夜間中学 「学ぶことは生きること」	仙台自主夜間中学
9 月 1 日(木) ～30 日(金)	9 月は防災月間!	サポートセンター
10 月 1 日(土) ～30 日(日)	第3回カード織り展	カード織りあかつき会
11 月 4 日(金) ～29 日(火)	このまちで暮らしている。私も あなたも。12 月は世界エイズデー	やろっこ
12 月 2 日(金) ～27 日(火)	12 月は寄付の月・1 年の終わりに 寄付について考えてみませんか!	寄付月間展示 実行委員会
令和 5 年 1 月 7 日(土) ～29 日(日)	緑化フェアの紹介パネル	一般社団法人 ReRoots
2 月 1 日(水) ～3 月 14 日(火)	エジプト COP27・闘いの記録	Fridays For Future Sendai
3 月 17 日(金) ～31 日(金)	てんかん啓発キャンペーン 「パープルデー」	公益社団法人日本てん かん協会宮城県支部

(2)市民活動、協働等に関する図書資料の収集、管理及び貸出

P27「3-4. 図書の貸出」参照

(3)市民活動団体等のチラシ、ポスター等の受付、掲示及び関係施設への配布

・仙台に情報の背骨を通すプロジェクト(骨プロ)担当者会議

日時:5 月 19 日(木)15:00～16:30

会場:サポートセンター4 階 研修室 5

出席者:5 施設、3 所管部署から計 10 名

内容:骨プロ主旨、チラシ受付の流れ・ルール説明、連携施設同士の情報交換

・せんだいメディアテーク改修工事に伴う臨時休館により、骨プロチラシ受付停止

期間:令和 4 年 8 月 9 日(火)から 10 月 31 日(月)

(4)サポートセンターのホームページの管理及び更新

P29「3-5. 情報発信(2)ホームページの管理」参照

(5)そのほか情報収集提供業務全般 P28～「3-5. 情報発信」参照

	2.機関誌『ぱれっと』の発行 P28～「3-5. 情報発信」参照 3.市民ライターの育成 (1)ワークショップ「ローカルメディアコンパスを、ちょっと体験」 ① 市民ライター交流会 日 時:令和 4 年 5 月 27 日(金)18:30～20:00 会 場:サポートセンター1階 マチノワひろば 対 象:過去市民ライター養成講座受講者 令和 3 年度ローカルメディアコンパスワークショップ参加者 参加人数:3 名(定員:なし) 参加費:無料 内 容:最近発信したことの報告会、ローカルメディアコンパス体験、 情報発信に関する悩み相談 ② 地域メディア談話室 日 時:令和 4 年 7 月、9 月、11 月に 1 回ずつ(計 3 回)実施 各回 18:30～20:00 会 場:サポートセンター1 階マチノワひろば又は、地下 1 階市民活動シアター 対 象:地域の情報発信をしている方、地域のために何か発信してみたい方、 ゲストの活動に興味がある方、情報発信について情報交換したい方 参加人数:計 33 名(定員:各回 10 名程度＝計 30 名) 参加費:無料 内 容:ゲストの活動紹介、ローカルメディアコンパス体験(ゲストの体験談をも とに制作したローカルメディアコンパスカードでのワークショップ含む) <table><tr><th>開催日時</th><th>ゲスト</th><th>参加人数</th></tr><tr><td>令和 4 年 7 月 29 日(金)</td><td>連坊オモシロ案内人 代表 千葉 隆夫さん</td><td>11 名</td></tr><tr><td>9 月 24 日(土)</td><td>COLORweb 学生編集部</td><td>15 名</td></tr><tr><td>11 月 25 日(金)</td><td>NPO 法人 m.k.base 代表理事 齋藤 愛さん、 副代表理事 満園 依李さん</td><td>7 名</td></tr></table> ③ 地域メディア妄想編集会議 日 時:令和 5 年 1 月 20 日(金)18:30～20:00 会 場:サポートセンター地下1階 市民活動シアター 対 象:情報発信活動に関してやってみたいことをお持ちの方 参加人数:12 名(定員:10 名程度) 参加費:無料 内 容:妄想を話し、形にするためのワークショップ(妄想を自由に出し合っ た後、実現するためのアイデアを参加者全員で考える)	開催日時	ゲスト	参加人数	令和 4 年 7 月 29 日(金)	連坊オモシロ案内人 代表 千葉 隆夫さん	11 名	9 月 24 日(土)	COLORweb 学生編集部	15 名	11 月 25 日(金)	NPO 法人 m.k.base 代表理事 齋藤 愛さん、 副代表理事 満園 依李さん	7 名
開催日時	ゲスト	参加人数											
令和 4 年 7 月 29 日(金)	連坊オモシロ案内人 代表 千葉 隆夫さん	11 名											
9 月 24 日(土)	COLORweb 学生編集部	15 名											
11 月 25 日(金)	NPO 法人 m.k.base 代表理事 齋藤 愛さん、 副代表理事 満園 依李さん	7 名											
添付	■広報物 □配布資料 ■アンケート結果 ■その他 (マチノワギャラリー・ひろば展示感想シート、ぱれっと、ぱれっと読者の声)												

個別事業報告書

【事業2】相談事業	
事業目的	サポートセンター内外で多様な主体の相談に応じることのできる環境を整える。
成果目標	地域の課題に気づいた市民が課題解決に自ら取り組み、必要に応じて多様なまちづくりの主体が協働で課題解決に取り組める状況をつくる。
実施目標	年間相談件数900件、活動相談件数400件
成果	1. 相談対応 (1)市民活動のはじめ方、市民活動団体の運営、法人格の取得等、市民活動全般に関する相談対応 P33～「4. 相談・問い合わせ対応」参照 (2)市民活動団体間の協働や、多様なまちづくりの主体間の協働を進めるために必要な相談対応 P33～「4. 相談・問い合わせ対応」参照 (3)相談ツールの活用 ①「市民活動の始め方続け方」の改訂 相談対応の中で質問が寄せられた内容をより分かりやすく説明するため、改訂を行った。法改正で変更になったNPO法人の縦覧期間も訂正した。 ②「市民活動お役立ち情報」の改訂 P25～「3-3.市民活動団体への情報提供」参照 ③相談チラシの作成 イベント・講座の開催時や、市民活動の現場を訪問する際に相談機能を紹介したチラシを配布したことで、サポートセンターの相談機能について周知できた。相談者の中には相談チラシを持って来館されたケースも見られた。 2. 伴走相談・アウトリーチ相談 (1)伴走相談 継続対応中の伴走相談は令和3年度の16件から令和4年度は43件に増加。活動の段階に応じた相談対応を継続して実施した。 (2)アウトリーチ相談 ①アシ☆スタ起業・創業なんでも相談DAY 公益財団法人仙台市産業振興事業団が運営する仙台市起業支援センター「アシ☆スタ」主催の「起業・創業なんでも相談DAY」に出張相談員として参加。年間を通して、3件の相談に対応した。 ②その他 ・アウトリーチ相談として32件の現場訪問を行った。 ・ロッカー・レターケース・事務用ブースの利用団体から提出された活動報告書にあげられた課題や伴走相談で聞かれた内容をもとに、フォローアップ講座や相談、また他施設で行われる講座などの情報提供を56件実施した。 3. 協働実践者の活用 協働を実践している現場を訪問し、関係者と顔が見える関係を構築することを目的として15の企業・団体等を訪問した。

課題	1. 相談対応 「市民活動お役立ち情報」のオンラインを使った活動に関するお役立ち情報の作成が遅れ、発行ができなかった。令和5年度中には完成を目指す。 2. 伴走相談・アウトリーチ相談 伴走相談をしている団体のこれまでの対応記録や次に行う支援を可視化し、把握する仕組みが存在しないため、計画的な対応を実施できていない。 3. 協働実践者の活用 令和4年度は協働を行っている現場訪問(関係構築)が中心で、まだ協働の実践者の活用までは至っていない。
実施概要	1. 相談対応 (1)市民活動のはじめ方、市民活動団体の運営、法人格の取得等、市民活動全般に関する相談対応 P33～「4. 相談・問い合わせ対応」参照 (2)市民活動団体間の協働や、多様なまちづくりの主体間の協働を進めるために必要な相談対応 P33～「4. 相談・問い合わせ対応」参照 (3)相談ツールの活用 ①「市民活動の始め方続け方」の改訂 全 28 ページ 1,000 部作成 ②「市民活動お役立ち情報」の改訂 P25「3-3.市民活動団体への情報提供」参照 ③相談チラシの作成 サポートセンターの相談機能を周知することを目的とし、こういった相談が出せるのかについて説明をしたチラシを作成、配架した。 2. 伴走相談・アウトリーチ相談 (1)伴走相談 フォローアップ(状況確認)による情報提供やコーディネート等、継続した相談対応で、伴走型の支援を実施。 (2)アウトリーチ相談 ①アシスタ起業・創業なんでも相談DAY 日時:毎月第三水曜日 13:30～16:30 相談件数:3 件 ②その他 ○ まちづくり活動助成報告会 ・太白区まちづくり活動助成報告会 実施日:令和5年2月4日(日) 会場:太白区役所 主催:太白区まちづくり推進課地域活動係 ・若林区まちづくり活動助成報告会 実施日:令和5年1月31日(火) 会場:若林区中央市民センター 主催:若林区まちづくり推進課地域活動係 各区のまちづくり活動助成報告会に参加し、情報収集を行った。

○ 若者社会参画型学習推進事業の見学

- ・泉区中央市民センター「ICP ～Izumi Community Project～」

- 実施日:令和4年5月19日(木)

- 場所:泉区中央市民センター

- ・若林区中央市民センター「仙白園・人 プロジェクト」

- 実施日:令和4年6月25日(土)

- 場所:若林区中央市民センター

- ・青葉区中央市民センター「若者によるまちづくり実践塾」

- 実施日:令和4年7月5日(火)

- 場所:青葉区中央市民センター

各区の中央市民センターが主催する若者社会参画型学習推進事業を見学し、情報交換を行った。その後も、サポセンユースフェスタや地域メディア談話室など活動に関連するイベント等の情報提供を行った。

○ 公益社団法人 仙台青年会議所

「SDGsWeek Sendai2022 -未来を考える一週間-」

- 実施日:令和4年7月18日(日)、19日(月)

- 会場:ぶらんど～む一番町、サンモール一番町

SDGsへの意識を高め、行動を起こすことを目的としたイベントにブースを出展。その中で7件の相談・情報提供に対応した。

○ 宮城野区社会福祉協議会宮城野区ボランティア団体交流会

- 訪問日:令和4年8月18日(木)

- 会場:宮城野区中央市民センター

子ども食堂や地域住民の居場所作りをはじめとした様々な活動を行う 11 のボランティア団体と 3 つの地区社会福祉協議会が参加する交流会に参加し、その中で 8 件の相談・情報提供に対応した。

この他にも様々な団体の活動現場へ訪問し、相談・情報提供を行った。

また、ロッカー・レターケース・事務用ブースを利用している団体から提出された活動報告書に記載された課題を基に、相談をはじめ会計講座、動画制作講座、また他施設で行われる講座・イベントなどへの案内を行った。

3. 協働実践者の活用

協働を実践している現場を訪問し、関係者(協働の実践者やコーディネーター的な役割を担うキーパーソン等)と顔が見える関係を構築。それらの人材から、協働を進めるために必要な支援について情報収集した。

○ お茶の井ケ田株式会社「まちのライブラリー」

- 訪問日:令和4年4月30日(土)

企業と市民活動団体の協働についてお話をお聞きし、企業側の協働に向けた体制作りについてお話をお聞きした。

	○ 株式会社藤崎「Fujisaki Day」 訪問日: 令和4年6月12日(日) 子どもたちに動物や自然環境に興味を持ってもらうため様々な主体と協力し実施されているイベントに訪問。 ○ 日本青年会議所東北地区宮城ブロック協議会「みやぎまちづくりフェア」 訪問日: 令和4年6月25日(土) 多様なまちづくり活動を行う市民活動団体が集まりまちづくりや地域の魅力発信について考えるイベントを訪問。 ○ 東北環境パートナーシップオフィス「パートナーシップ団体情報交換会」 訪問日: 令和4年7月12日(火) 東北各地の環境団体が参加する情報交換会に参加。 ○ つるがや元気会市民講座「e スポーツ的発想でのまちづくり」 訪問日: 令和4年9月6日(火) 令和4年度地域づくりパートナープロジェクト推進助成事業の課題調査検証助成採択団体が実施する市民講座に参加。一般社団法人仙台 e スポーツ協会との協働事業の計画についてお話を伺った。 ○ 青葉通仙台駅前エリア社会実験 訪問日: 令和4年9月23日(金) 多様な主体が参画した社会実験の現場を訪問。 ○ NPO 法人イコールネット仙台「多様な視点で取り組む防災力 UP 講座」 訪問日: 令和4年 10 月 1 日(土) 多様な団体がそれぞれの視点で取り組む防災の事例発表会に参加。 ○ StudioSodaSendai「地下道 3150」 訪問日: 令和4年 10 月 8 日(土) 令和4年度ユースチャレンジ！コラボプロジェクト(若者版・市民協働事業提案制度)採択団体のイベントを訪問。 ○ NPO 法人メディアージ「コーヒーハウス」 訪問日: 令和4年 10 月 8 日(土) 今後の事業協働の参考に団体のイベントに参加。令和5年度に協働で事業を実施することとした ○ ひときたしゃべる「あなたはひとりじゃない」 訪問日: 令和4年 10 月 15 日(土) 地域資源と市民をつなぐ活動の現場を訪問 ○ NPO 法人地域支援オレンジねっと「ご縁日まつり」 訪問日: 令和4年 10 月 22 日(土) 多様な団体が参画する地域のイベントを訪問 ○ 仙台市社会福祉協議会「地域福祉セミナー」 訪問日: 令和4年 11 月 2 日(水) 地域福祉における地域協働の事例発表を事業の参考にするために参加
--	---

	○ 仙台スポーツサポーターズネットワーク(SSSN) 訪問日:令和5年1月17日(火) スポーツボランティアを行っている団体のネットワーク会議に参加 ○ 仙台白百合女子大学地域生き生きプロジェクト、鶴が丘一丁目町内会 訪問日:令和5年1月31日(火) 令和4年度地域づくりパートナープロジェクト推進助成事業の課題調査検証助成採択団体と町内会による協働の現場を訪問。 ○ 一般社団法人ございん八木山 訪問日:令和5年3月24日(金) 令和4年度地域づくりパートナープロジェクト推進助成事業の協働実践助成採択団体の実施事業を訪問
添付	☐ 広報物 ☐ 配布資料 ☐ アンケート結果 ☐ その他()

個別事業報告書

【事業 3】人材育成事業	
事業目的	地域や社会の課題の解決に様々な形で関わる市民を増やし、その潜在能力を引き出すことで、価値観の変化や地域の存立に大きな影響を与える課題にもしなやかに対応できる人材を育成する。
成果目標	事業参加を通してその後の行動や活動に変化がもたらされた事例を 5 年間で 100 件以上生み出す。
実施目標	若者の人材育成に資する事業 2 事業以上
成果	1.支える市民を増やす (1)いづいっちゃんねる(動画配信) ・年4回(第 11～14 回)配信し、当日リアルタイム視聴件数は合計 28 件。 ・令和4年度に配信した動画の再生回数のはのべ 1125 回。(令和5年3月末時点) ・視聴者へ配信を通して「行動してみたい」「参考になった」と考えた場合、高評価を押すよう呼び掛けたところ、年間合計 33 件の高評価があった。 ・YouTube のチャットには、「活動に参加してみたい」「家がないだけがホームレスではないんだ」などの声が寄せられ、活動への参加や社会課題への理解を深めるきっかけになった。 ・配信後、twitter に「TOHOKU360 の広報で知り初めて視聴し考えが変わった」という内容の書き込みがあった。サポートセンター利用者以外の社会課題関心層にアプローチできていることが確認できた。 (2)コトハジメ塾 ・活動を始めたい市民 6 名が参加し、講座満足度は 5 点満点中 4.3 点だった。 ・講座受講後に参加者の個別相談に 4 件対応した。 ・参加者 1 名から活動立ち上げの相談があり、のべ 10 回の伴走相談を実施。令和5年1月の団体立ち上げにつながった。 2.活動力強化講座 (1)NPO お金のアレコレシリーズ ・年間合計 3 件行った個別相談の申込団体は、いずれも活動を始めて 1 年以内か、会計担当になって 2 年以内であり、会計初心者へのサポートに繋がった。 ・年間を通し、複数回受講する団体も多く、会計の基礎から報告まで一連の流れで学ぶ機会を創ることができた。 会計講座～キホンのキ～ ・市民活動団体の会計担当者 13 名が参加し、平均満足度が 5 点満点中4.3点、理解度が 4 点だった。 ・アンケートの結果、仕訳やインボイス制度など実務に関する内容が好評だった。 助成金講座 ・助成金申請や団体設立を検討中の方や市民活動初心者など 15 名が参加し、平均満足度が 5 点満点中 4.5 点、理解度が 4.5 点だった。 ・受講後、参加者 3 件の相談に対応した。 ・アンケートより、「講座を受講し、助成金申請が通らなかった原因が分かった」との記載があり活動力強化につながった。

資金繰り講座

- ・市民活動団体の会計担当者 7 名が参加し、平均満足度が 5 点満点中 4.4 点、理解度が 4 点だった。
- ・資金繰り講座受講後、参加者へのメールでの聞き取りにて、1 団体が講座で学んだ「資金繰り表」の運用を開始したことが分かった。

会計講座～報告のコツ～

- ・市民活動団体の会計担当者 6 名が参加し、平均満足度が 5 点満点中 4.3 点、理解度が 3.5 点だった。
- ・講師による個別相談では、引き継ぎしやすい会計処理や、勘定科目の立て方など、個別のケースや課題感に対応することができ、満足度が高かった。

(2)協働ゼミ

定員(5 団体)を超える 9 団体が受講。仙台市の協働促進の諸制度への応募を検討している団体等の人材に対し、協働に取り組むための基礎を学び、協働について考える機会を提供した。(令和4年度は初年度のため、4回中2回を年度内に実施。令和5年度に残り2回を実施する)

3.事業参加者フォローアップ

今年度、聞き取りし、活動の動きが確認されたのは、令和3年度と合わせ 197 件だった。以下、相談者の成果事例を 3 件掲載する。

【事例1「助成金講座」受講者】

助成金講座受講から約2週間後に相談のため来館。助成金の探し方や、応募条件、複数助成金に応募する場合についてなど、助成金応募のための相談に対応した他、活動面の課題を聞き取り、活動内容の整理なども行った。

【事例2 団体の活動相談】

令和4年9月に立ち上がった女性支援団体。立ち上げ当初から、広報、資金調達など団体の活動段階に応じて、継続的に相談対応。活動が軌道に乗り、法人化も視野に活動を継続している。

【事例3 相談対応している団体同士のコーディネート】

令和3年度より相談を受け、法人化した一般社団法人と、令和4年11月から相談を受け団体設立に至った学生団体をサポートセンターが間に入りつないだ。両者が社会の課題と感じていることや活動内容が一致し、協働による企画が進行中。

4.発表の場づくり

相談対応から 10 件の発表の場を作った。マチノワギャラリーやマチノワひろばを活用したことのなかった団体や、活動 PR の場が充分ではない団体などに、積極的に働きかけ、発表の場を提供できた。

動画制作講座

- ・第1回目は参加者 8 名、平均満足度が 5 点満点中 4.8 点、理解度が 4.4 点だった。第2回目は参加者 5 名、聴講生 3 名が参加。第2回目の平均満足度が 5 点満点中 5 点、理解度が 4.8 点だった。満足度、理解度ともに高い評価を得た。
- ・令和5年3月時点で、参加団体8団体中、動画を制作した団体が2団体、令和5年度内に制作を決定している団体が 2 団体であった。

	5.若者の人材育成に資する事業への協力 (1)宮城野区中央市民センター「まいぶろ」 ・企画・運営相談に応じ、取材先団体候補の情報提供を行った。 ・活動中の記事執筆では、必要に応じて、高校生のサポートを行った。 (2)仙台まちづくり若者ラボ 仙台まちづくり若者ラボの参加者が、サポートセンターの交流事業「サポセン・ユース・フェスタ」に参加するなど、一部で事業間連携ができた。 (3)仙台若者 SDGs アワード 最終審査会だけでなく、その後開催されたセミナーにも協力し、社会課題の解決に取り組んでいる若者の人材育成について、例年より 1 段階深く協力することができた。 (4)社会教育士実習受け入れ いづいっちゃんねるの視聴レポートを執筆しブログで公開するプログラムを取り入れ、情報発信を通したまちづくりに参画する機会を提供した。
課題	1.支える市民を増やす (1)いづいっちゃんねる ・視聴者に対し、社会課題解決に関わる機会の提案が充分ではなかった。 ・リアルタイム視聴件数や、アーカイブ視聴回数が、令和3年度に比べ落ち込んだ。 (2)コトハジメ塾 ・ボランティア体験など実際に市民活動に触れる機会の提供が不十分だった。 2.活動力強化講座 (1)NPO お金のアレコレシリーズ ・講座受講者から継続した支援の要望があった。会計基準が運用できているか、新たな会計の課題があるかなど、講座後の聞き取りと伴走相談の体制が必要。 (2)協働ゼミ ・1 回目の参加者から、「ワークショップの時間が足りない」との声があった。 3.事業参加者フォローアップ ・課題の聞き取りに留まらず、課題解決のための支援メニューの提供までできる仕組みづくりが必要である。 4.発表の場づくり 動画制作講座 ・講座終了後の継続的な発表の場づくりにつなげることができていない。 5.若者の人材育成に資する事業への協力 若者の人材育成の事業間で横の繋がりがなく、成果や情報が共有されていない。

実施概要

1.支える市民を増やす

(1)いづいっちゃんねる

市民活動無関心層・何かしたいと思いをもち関心層などを対象に、市民が地域の課題について深く知る動画コンテンツを地域に根差したメディア TOHOKU360 と、サポートセンターの協働により作成・配信した。

テーマ		視聴 件数	再生 回数	高評価
配信日時	ゲスト			
働く人の保健室				
令和 4 年 5 月 20 日(金) 19:00～20:00	WorkKafe 代表 阿部岳史さん 事務局長 菊池加与子さん	7	393	14
「普通」って何だろう？アートの現場から				
8 月 19 日(金) 19:00～20:00	NPO 法人ワンダーアート 代表 高橋雅子さん	7	184	5
ホームレスの「ホーム」って何だろう？				
11月 18 日(金) 19:00～20:00	NPO法人 仙台夜まわりグループ 青木康弘さん、新田貴之さん	8	440	10
「こんにちは」だっていいじゃない？				
令和5年 2 月 17 日(金) 19:00～20:00	外国人支援の会 OASIS 会長 反田恵美子さん	6	108	4
計		33	1,125	33

※再生回数は令和5年 3 月末時点

(2)コトハジメ塾

日時	令和 4 年 10 月 22 日(土) 14:00～14:30
会場	仙台市市民活動サポートセンター 1 階 マチノワひろば
講師	サポートセンタースタッフ
対象	地域をより良くしたい、課題の解決を目指したアクションを起こしたい、ボランティア活動に興味がある人(市民活動に対して興味を持っている層)
参加者	6 名(定員 10 名)
参加費	無料
内容	非営利組織の基礎知識や関わり方についてのミニ講座を実施した。併せてサポートセンターの機能を知ってもらうための館内ツアーを行った。

2.活動力強化講座

(1)NPO お金のアレコレシリーズ

「NPOのお金」をテーマに活動上の課題解決のノウハウを学べる無料の講座を実施した。

会計講座～キホンのキ～

日時	令和4年 7 月 23 日(土) 講座 13:00～14:30、個別相談 15:00～15:30
会場	仙台市市民活動サポートセンター 4 階 研修室5
講師	伊藤由紀公認会計士・税理士事務所 伊藤由紀さん
対象	非営利組織の会計担当者(会計の初心者・初級者)
参加者	13 名(定員 10 名)
内容	NPO の会計基準に基づき、NPO 会計の基本的な考え方や、会計処理、財務諸表の作り方など、実務に役立つ知識を学ぶ講座を実施。個別相談にも 1 件対応した。

助成金講座

日時	令和 4 年 9 月 17 日(土) 13:00～14:30
会場	仙台市市民活動サポートセンター 4 階 研修室5
講師	サポートセンタースタッフ
対象	市民活動初心者
参加者	15 名(定員 10 名)
内容	NPO の資金源、助成金の特性、助成金を出す側の論理などを紹介。助成金とはどのようなものなのかという理解を促進し、申請のコツを伝えた。

資金繰り講座

日時	令和 4 年 11 月 26 日(土) 13:00～14:30
会場	仙台市市民活動サポートセンター 4 階 研修室5
講師	伊藤由紀公認会計士・税理士事務所 伊藤由紀さん
対象	非営利組織の会計担当者(会計の初心者・初級者)
参加者	7 名(定員 10 名)
内容	活動資金のやりくりの重要性や、資金繰り表で資金の出入りを確認する方法、資金繰り表と活動計算書の繋がりを学ぶ講座を実施。

会計講座～報告のコツ～

日時	令和 5 年 2 月 18 日(土) 講座 13:00～14:30、個別相談 15:00～16:00
会場	仙台市市民活動サポートセンター 4 階 研修室5
講師	伊藤由紀公認会計士・税理士事務所 伊藤由紀さん
対象	非営利組織の会計担当者(会計の初心者・初級者)
参加者	6 名(定員 10 名)
内容	NPO法人の義務である会計報告について、活動計算書のまとめ方と、作成後のチェック方法を基礎から学ぶ講座を実施。個別相談にも 2 件対応した。

(2)協働ゼミ

NPOが、他の組織と一緒に課題解決に取り組むための基本とノウハウを学び、実際に協働で取り組む事業を考え、仙台市の「市民協働事業提案制度」や「地域づくりパートナープロジェクト推進助成事業」等への応募を目指す無料の4回連続講座を実施した。(3回目、4回目は令和5年度に実施)

協働ゼミ①仙台市の取り組みを知ろう

日時	令和4年12月22日(木) 14:00~15:30
会場	仙台市市民活動サポートセンター 6階 セミナーホール
講師	サポートセンタースタッフ
対象	行政や他の組織との協働で課題を解決したいと考えている NPO 法人等
参加者	9 団体 13 名(定員 5 団体)
内容	仙台市の協働に関する各制度の説明と、「仙台市基本計画 2021-2030」と自団体との共通点を考える個人ワークを実施。

協働ゼミ②協働のパートナーを探そう

日時	令和5年2月16日(木) 14:00~15:30
会場	仙台市市民活動サポートセンター 4階 研修室5
講師	サポートセンタースタッフ
対象	行政や他の組織との協働で課題を解決したいと考えている NPO 法人等
参加者	7 団体 10 名(定員 5 団体)
内容	協働のメリットやカタチ、パートナーについての座学と、想定する事業内容から協働相手を洗い出す個人ワークを実施。

3.事業参加者フォローアップ

随時、電話、ZOOM、メール等で、事業参加者・相談者等を対象に、事業実施後・相談後のフォローアップ(状況確認)を行い、事業参加前後・相談後にどのような変化が起きたのか、どのような支援を必要としているのかを把握し、次の行動を促すために、必要な支援メニューを提案・提供した。

4.発表の場づくり

(1)マチノワひろば、マチノワギャラリーの活用

相談対応から、以下の団体の展示による活動発表につなげた。

- ・西多賀まちづくり推進委員会 (マチノワひろば・マチノワギャラリー)
- ・一般社団法人アート・インクルージョン (マチノワひろば)
- ・NPO 法人ワンダーアート (マチノワひろば)
- ・広瀬川の水質と景観を守る会 (マチノワひろば)
- ・宮城野原案内人の会 (マチノワひろば・マチノワギャラリー)
- ・3.11キャンドルナイト実行委員会 (マチノワひろば)
- ・障がい者サポーターズ Golazo! (マチノワギャラリー)
- ・みやぎ化学物質過敏症の会～ぴゅあい～ (マチノワギャラリー)
- ・Fridays For Future Sendai (マチノワギャラリー)

各団体の展示内容は P●～「【事業1】情報収集提供事業 実施概要」参照

(2)動画制作講座

市民活動団体が動画による活動の発表ができるよう力付けを目的とした無料の連続講座を実施した。

動画制作講座①～動画制作の基礎を学ぼう！～

日時	令和5年2月5日(日) 12:30～17:00
会場	仙台市市民活動サポートセンター 3階 研修室2
講師	WACO CREATE 岩村和哉さん
対象	サポートセンター利用団体のうち、広報の課題を抱えている団体
参加者	8団体8名(定員10名)
内容	動画の企画・撮影・編集・発信の方法の解説の後、参加者が実際に動画作成を体験した。

動画制作講座②～動画を発表しよう！～

日時	令和5年3月4日(土) 13:00～15:00
会場	仙台市市民活動サポートセンター 4階 研修室5
講師	WACO CREATE 岩村和哉さん
対象	サポートセンター利用団体のうち、広報の課題を抱えている団体
参加者	6団体8名(定員10名)
内容	参加者が、第1回で学んだ技術を活かして各自制作した団体紹介動画の発表会を行い、講師がフィードバックをした。

5.若者の人材育成に資する事業への協力**(1)宮城野区中央市民センター「まいぷろ」**

宮城野区中央市民センター主催。将来の担い手である若者の「地域づくり活動への参画」と「自分づくり」を支援することで、主体的にまちづくりに関わる「人づくり」を目的とした若者参画型学習推進事業。令和4年度参加者は、尚絅学院高校と宮城野高校の高校生14人。高校生の興味・関心を大切に、若者の視点から宮城野区の魅力取材し、WEB記事で発信した。サポートセンタースタッフが協力したプログラムは以下の通り。

日程	内容
令和4年 5月21日(土)	オリエンテーション 協力
6月25日(土)	全体会(取材先探し) 協力
10月22日(土)	全体会(編集作業) 協力
11月12日(土)	全体会(編集作業) 協力
12月27日(火)	ミニ発表会 参加
令和5年 1月22日(日)	仙台市市民センター子ども・若者・大人事業成果報告会 参加
3月18日(土)	全体会(振り返り) 参加

(2)仙台まちづくり若者ラボ

仙台市による、若者自らが「自分ごと」として関われる、まちづくりに関するテーマを設定してワークショップとフィールドワークによる実践的なプログラム。サポートセンターはワークショップ会場およびグループ活動の会場提供を行った。

個別事業報告書

【事業 4】協働に関する理解促進及び機会創出事業	
事業目的	1.多様なまちづくりの主体が協働への理解を深める機会をつくる。 2.市民活動団体が協働の担い手になるために必要な理解を得る機会をつくる。 3.地域や社会の課題の解決に関心のある人たちが集い、交流できる場をつくる。 4.市民目線で発掘された社会課題に対し、多様な主体が関わり課題解決のために力を発揮する環境をつくる。
成果目標	協働についての理解促進が市民レベルで着実に広まり、地域や社会の様々な課題の解決に多様な主体が様々な形で関わり、しなやかに対応していく環境をつくる。
実施目標	協働の理解促進や創出に資する事業を、毎年度2事業以上実施する 事業者と他の主体の意見交換する事業を毎年度実施
成果	1.協働事例の発掘・理解促進 (1)協働の現場トーク！ 協働事例を紹介する動画を 2 本作成し、サポートセンターの YouTube チャンネルで公開。令和 5 年 3 月末現在、2 本合わせて156 回再生された。 2.多様な主体の交流の場 (1)サポセンユースフェスタ 26 名が参加。まだ活動をしていない人、すでに活動をしている人、若者の市民活動支援に携わる人がバランスよく参加した。前半のグループディスカッション、後半の自由交流ともに盛り上がり、全体を通して新たなつながりの創出ができた。 3.社会課題解決のプラットフォーム (1)せんだい・みやぎソーシャルハブ情報交換会 情報交換会への新規参加者が増えたことで、新たな人たちへ社会課題を共有することができた。情報交換会の参加者(85 名)に占める初参加者の割合を属性別にみると、市民(80%)、企業(75%)、行政(91%)で、初参加者の割合が高くなっており、参画主体を拡大するという目標通り、市民、企業、行政の参画拡大を達成できた。
課題	1.協働事例の発掘・理解促進 (1)協働の現場トーク！ ・動画収録から配信までの編集作業に日数を要した。 ・配信動画の有効活用が課題である。 2.多様な主体の交流の場 (1)サポセンユースフェスタ サポートセンターを利用していない若者世代とのつながりが希薄である。 3.社会課題解決のプラットフォーム (1)せんだい・みやぎソーシャルハブ情報交換会 事業を通して課題解決のプロジェクト創出にはいたらなかった。
実施概要	1.協働事例の発掘・理解促進 (1)協働の現場トーク！ 地元企業と学生団体、地域の活性化に関わりたい方との協働、青年会議所と高校生の団体との協働という異なるセクターの協働に関する動画を作成した。

収録日	令和4年7月29日(金)
会場	仙台市市民活動サポートセンター 研修室5
ゲスト	お茶の井ヶ田株式会社 石垣直哉さん
内容	仙台若者アワード2021協働部門の学生団体との協働事業エントリー企業であり、秋保地区における地元農家や地域との協働による中山間地域の活性化・六次産業化に取り組むお茶の井ヶ田株式会社をゲストに迎え、協働の生まれたきっかけ、役割分担、現場運営の現状、成果等についてインタビューを行った。 撮影した動画を編集後、YouTubeチャンネルにて公開。

収録日	令和5年1月9日(月)
会場	仙台市市民活動サポートセンター セミナーホール
ゲスト	3.11 キャンドルナイト実行委員会 金ヶ崎政伸さん・北谷春子さん 高校生連携協議会 會田幸千さん・尾関紗菜さん
内容	2012年、公益社団法人仙台青年会議所で立ち上がった東日本大震災犠牲者への祈りと震災伝承を行う事業「3.11 キャンドルナイト」が、高校生連携協議会との協働で継続実施されてきた経緯。役割分担、成果等についてインタビューを行った。撮影した動画を編集後、YouTubeチャンネルにて公開。

2.多様な主体の交流の場

(1)サポセンユースフェスタ

日時	令和5年2月10日(金)19:00~21:00
会場	仙台市市民活動サポートセンター地下1階 市民活動シアター
対象	① 20~30代の若者を中心に活動している県内の市民活動団体 ② これから市民活動に関わってみたいと考えている、またはすでに活動をしている20~30代の若者 ③ 市民活動に興味関心のある、または市民活動を行っている若者 に対して関心を持つ行政・市民センター・中間支援施設の職員
参加者	26名(定員60名/大雪のためキャンセル11名)
参加費	無料
内容	前半はグループに分かれて市民活動と若者をテーマにしたディスカッションを行った。3つのテーマの中から一つを選び、グループごとに模造紙にまとめた議論の内容をいくつかの班が発表。後半は、グループの垣根を超えた自由な交流の時間。ミッションカードやチェキなどの仕掛けによって会話のきっかけを作り、自由な交流を促進した。

3.社会課題解決のプラットフォーム

(1)せんだい・みやぎソーシャルハブ情報交換会

【実施内容】

実施日時:毎月第3木曜日(9月、3月を除く)19:00~20:30

会場:仙台市市民活動サポートセンター セミナーホールと
オンライン(Zoom)のハイブリッド方式で開催

対象:社会課題の解決に関心のある多様な主体、個人

参加費:無料

内容:市民目線で発掘された社会課題に対し、設定したテーマをもとに多様な主体が参加する情報共有のための定例会。多様な主体が、課題解決のためにそれぞれの資源を持ち寄り、それぞれの役割を認識して、力を発揮するプロジェクトにつなげる内容とした。

回	実施日	テーマ	参加人数	うち初参加
1	令和4年 4月14日(木)	情報&意見交換会	15名	4名
2	5月19日(木)	居住支援(住宅セーフティネット)	21名	5名
3	6月23日(木)	住まいの支援-住居を貸し出す側の視点から	17名	4名
4	7月21日(木)	住まいの支援-まとめ-	18名	1名
5	8月18日(木)	市民活動団体からの課題共有	17名	4名
6	10月20日(木)	新しい社会貢献をやってみた～プロボノ～	16名	3名
7	11月17日(木)	情報&意見交換会	21名	5名
8	12月5日(木)	キフカッション	25名	6名
9	令和5年 1月19日(木)	プロボノデビューセミナー!	22名	7名
10	2月16日(木)	社会課題の現場へ一歩踏み出そう	21名	6名
計			193名	45名

参加者内訳

回	市民	企業	大学	NPO	行政	議員	計
1	2名	0	0	13名	0	0	15名
2	3名	0	0	16名	1名	1名	21名
3	0	2名	1名	12名	2名	0	17名
4	0	0	1名	13名	4名	0	18名
5	2名	0	1名	11名	2名	1名	17名
6	1名	2名	1名	9名	3名	0	16名
7	4名	3名	1名	11名	2名	0	21名
8	2名	2名	1名	20名	0	0	25名
9	3名	1名	0	13名	5名	0	22名
10	5名	1名	1名	10名	4名	0	21名
のべ人数	22名	11名	7名	128名	23名	2名	193名
参加者実数	15名	8名	1名	49名	11名	1名	85名
初参加数	12名	6名	0	17名	10名	0	45名

添付

☒ 広報物 ☐ 配布資料 ☒ アンケート結果 ☐ その他()

個別事業報告書

【事業 5】調査研究事業	
事業目的	仙台の市民社会のあり方とあり方を支える仕組み(施策)を検討・試行し、協働によるまちづくり・地域づくりを推進する。
成果目標	仙台の市民社会のあり方とあり方を支える仕組み(施策)を検討・試行し、協働によるまちづくり・地域づくりを推進する。
実施目標	プラットフォーム運用体制の維持。 企業ヒアリングを通して、事業者へのアプローチ方法を検討する。
成果	・社会課題解決のプラットフォーム(せんだい・みやぎソーシャルハブ)事務局の運用を協働体制で開始した。 ・社会課題を市民の手で調査分析・可視化するソーシャルラボ機能にて「居住支援」をテーマに、市民、企業、支援団体、行政の4つのセクターが参画してロードマップを作成した。もう一つのテーマ「プロボノ」ではプロボノ希望者への話題提供や勉強会を行った結果、仙台市内では「プロボノ」が浸透する前段階であることがわかったため、せんだい・みやぎソーシャルハブの広報に取組むプロボノを公募し、5 人のプロボノを獲得した。 ・企業ヒアリングや企業アンケートを通して、これまでつながりがなかった企業とのつながりができた。
課題	・せんだい・みやぎソーシャルハブへの多様なセクターからの参画者の増加。 ・参加者を増加させるためには広報に課題がある。 ・ソーシャルハブ事務局機能の安定化。
実施概要	1.多様な主体の参加による協働体制の構築 (1)社会課題解決のプラットフォームの運用のための協働体制の確立 社会課題解決のプラットフォーム運用のため、NPO 法人せんだい・みやぎ NPO センター、NPO 法人都市デザインワークス、一般社団法人パーソナルサポートセンターの 3 者で運用の共同運営を確立した。運営資金調達のため公益財団法人日本財団の助成金申請を行い、採択された。 (2)社会課題解決のプラットフォームの協働運営 社会課題解決のプラットフォーム運営に当たり、3 者で役割分担を行い共同運営に当たった。 (3)必要な機能の洗い出しと共有 ①調査研究事業ミーティング 定期打合せ(3 者による事業の企画検討のためのミーティング) 年間 9 回実施 (1 時間～2 時間/回)。 会場:仙台市市民活動サポートセンターまたはオンライン(ZOOM) 令和 4 年 5 月 30 日(月)、6 月 27 日(月)、7 月 21 日(木)、8 月 19 日(金)、9 月 20 日(火)、 10 月 25 日(火)、11 月 25 日(金)、12 月 22 日(木)、令和 5 年 1 月 10 日(火) その他のミーティング ・令和 4 年 4 月 5 日(火)NPO 法人いわて連携復興センター取組みヒアリング ・令和 4 年 6 月 17 日(金) NTT 都市開発との情報交換 ・令和 4 年 7 月 1 日(金)、7 月 8 日(金) アンケート調査設計ミーティング

②情報発信

せんだい・みやぎソーシャルハブ Facebook グループページおよび note で情報発信を行った。

Facebook グループページの令和 5 年 3 月末時点での参加メンバーは 551 名（前年同期比 131%）。参加メンバー間でも社会課題についての情報交換が行われている。

note では、調査研究事業の進捗などを年間 34 件発信した。

③報告会

調査研究事業の進捗および知見を共有するための市民向け報告会を 2 回実施した。

社会貢献の新しい関わり方会議

実施日	令和 4 年 9 月 25 日 13:00~15:30
会場	仙台市市民活動サポートセンター およびオンライン（YouTube ライブ配信）
参加者	65 名
内容	NP0 など市民活動を行う団体から事業紹介と今の課題を共有。高校生、マスコミ、企業関係者、個人事業主など多様な参加者が活発に意見を交わし、それぞれの立場でできる社会貢献について考える機会となった。

参加者内訳

	市民	企業	大学	NP0	行政	その他	計
会場	4 名	8 名	0	21 名	5 名	0	38 名
YouTube	6 名	2 名	1 名	11 名	4 名	3 名	27 名
計	10 名	10 名	1 名	32 名	9 名	3 名	65 名
割合	15%	15%	2%	49%	14%	5%	

※申込者のうち、所属の記入がない人は「市民」に分類。

※申込せずに YouTube のリアル視聴をしていた人を「その他」に分類。

プロボノへ参加したい人セミナーとプロボノ募集説明会

- 社会貢献新しい関わり方始めませんか？ -

実施日	令和 5 年 3 月 16 日 18:30~20:30
会場	仙台市市民活動サポートセンター およびオンライン（ZOOM）
参加者	24 名
内容	せんだい・みやぎソーシャルハブへの参画者の拡大と、社会課題解決に取り組む団体とプロボノ人材のマッチングを目的に、せんだい・みやぎソーシャルハブの活動報告、プロボノ入門セミナー、プロボノ募集説明会を実施した。

参加者内訳

	市民	企業	大学	NP0	行政	その他	計
会場	2 名	0	1 名	10 名	4 名	0	17 名
ZOOM	3 名	1 名	0	2 名	1 名	0	7 名
計	5 名	1 名	1 名	12 名	5 名	0	24 名
割合	21%	4%	4%	50%	21%	0%	

※申込者のうち、所属の記入がない人は「市民」に分類。

2.ソーシャルラボ機能の実装

(1)ソーシャルラボ事務局によるミーティングの実施

定期打合せ(ラボ事務局メンバーによる進捗管理ミーティング)
年間 34 回実施 (1 時間/回)。オンライン(ZOOM)

令和 4 年 4 月 11 日(月)、4 月 14 日(木)、5 月 9 日(月)、5 月 16 日(月)、5 月 23 日(月)、
6 月 6 日(月)、6 月 14 日(火)、6 月 20 日(月)、7 月 4 日(月)、7 月 11 日(月)、7 月 29 日(金)、
8 月 5 日(金)、8 月 12 日(金)、8 月 26 日(金)、9 月 2 日(金)、9 月 9 日(金)、9 月 16 日(金)、
9 月 22 日(木)、9 月 30 日(金)、10 月 14 日(金)、10 月 21 日(金)、10 月 28 日(金)、
11 月 4 日(金)、11 月 11 日(金)、11 月 18 日(金)、11 月 25 日(金)、12 月 2 日(金)、12 月 9 日(金)、
12 月 16 日(金)、令和 5 年 1 月 13 日(金)、1 月 20 日(金)、1 月 27 日(金)、2 月 3 日(金)、
2 月 21 日(火)

(2)社会課題の調査・分析

①ソーシャルラボ「居住支援」

・テーマ「居住支援」

メンバー構成	市民(大学生を含む)、企業(不動産業)、NPO(支援者)、行政(宮城県、多賀城市、サポートセンター)、ラボ事務局
参加者数	全5回のべ 33 名
ロードマップ	添付資料参照
今後の展望	参画してほしい人・セクターのリスト作成までを行った。今後、関係者に声がけをして事業化をめざす。

第 1 回

実施日	令和 4 年 8 月 30 日 18:00~20:00
会場	even (仙台市青葉区一番町 3-11-15 仙台フォーラス 7F) およびオンライン(ZOOM)
参加者	市民 1 名、NPO 2 名、行政 1 名、事務局 2 名 計 6 名
内容	現場で直面する悩み、居住支援業界の「あるある」をメンバーで共有。深掘りできるものを中心にメンバーで意見交換を行った。専門分野の者同士がノウハウや対応ケースを共有するなかで、「こんな方法があるのか」という発見が見られた。

第 2 回

実施日	令和 4 年 9 月 20 日 18:00~20:00
会場	仙台市市民活動サポートセンター およびオンライン(ZOOM)
参加者	市民 1 名、NPO 5 名、行政 1 名、事務局 2 名 計 9 名
内容	前回のラボで洗い出した課題について、社会の課題・居住支援業界の課題・個々の団体の課題の三つに分類した資料を事務局より提出。課題を解決するために、居住支援の専門家と共に、個人/企業/団体/社会がどのようなことをすべきか(どのような協働が可能か)、課題解決のためのアイデアを検討した。

第 3 回

実施日	令和 4 年 10 月 25 日 18:00~20:00
会場	仙台市市民活動サポートセンター
参加者	市民 2 名、企業 1 名、NPO 1 名、行政 1 名、事務局 2 名 計 7 名
内容	居住支援の現場で最近直面している相談ケースについて、話せる範囲で共有。その後、参加メンバーで意見交換。

	第 4 回
	実施日 令和 4 年 12 月 23 日 18:00~20:00
	会場 オンライン(ZOOM)
	参加者 市民 1 名、行政 1 名、事務局 2 名 計 4 名
	内容 ロードマップのまとめ作業と情報交換
	第 5 回
	実施日 令和 5 年 3 月 3 日 18:00~20:00
	会場 仙台市市民活動サポートセンター
	参加者 市民 1 名、NPO 4 名、行政 1 名、事務局 1 名 計 7 名
	内容 作成したロードマップ案を眺めながら、ロードマップのブラッシュアップと、重点プロジェクトの検討を行った。
	・テーマ「プロボノ」
	メンバー構成 市民(プロボノ希望者)、企業(まちづくり会社)、NPO(プロボノ受入れ側)、事務局
	参加者数 全 2 回のべ 12 名
	ロードマップ まだ作成段階に至っていない
	今後の展望 せんだい・みやぎソーシャルハブで、まずはプロボノ募集・受け入れを経験して、その経験からプロボノ普及のためのロードマップ作成に着手していく。
	第 1 回
	実施日 令和 5 年 1 月 26 日 19:00~20:00
	会場 オンライン(ZOOM)
	参加者 市民(会社員)1 名、事務局 3 名 計 4 名
	内容 プロボノ希望者へのヒアリング。参加のモチベーションについて、会社の支援制度の有無、情報源、プロボノ推進のために必要な仕組みなど。
	第 2 回
	実施日 令和 5 年 2 月 1 日 18:00~20:00
	会場 オンライン(ZOOM)
	参加者 市民(行政職員)1 名、企業 1 名、NPO 2 名、事務局 4 名 計 8 名
	内容 プロボノ希望者へのヒアリング。参加のモチベーションについて、会社の支援制度の有無、情報源。プロボノ推進のために必要な仕組みについては、プロボノ希望者を含めて全員で意見交換した。
	②NPO 法人調査
	仙台市内の NPO 法人等を対象にコロナ禍の影響およびボランティア・プロボノの参加・募集状況について WEB アンケートを実施した。
	アンケート実施期間:令和 5 年 2 月 11 日(土)~2 月 28 日(火)
	NPO 法人アンケート 送付 696 件 回答 47 件
	詳細は「令和 4 年度調査研究事業報告書」参照
添付	☐ 広報物 ☐ 配布資料 ☐ アンケート結果 ☒ その他(令和 4 年度調査研究事業報告書)